

長 薬 同 窓 会 報

Alumni Association

School of Pharmaceutical Sciences

Nagasaki University

第 46 号 (2006年)

目 次

同窓会長挨拶	伊豫屋偉夫（昭41）	1
薬学部長挨拶	松村 功啓	2
平成18年度長薬同窓会総会・懇親会		4
平成19年度総会案内		5
支部だより		6
関東支部，近畿支部，四国支部，山陰支部，広島支部，山口支部，北九州支部，福岡支部浦陵会， 熊本支部，長崎県北支部，島原支部，長崎支部ぐびろ会		
クラス会および近況だより		21
大隈直之（昭23），中倉敬昭（昭26），服部俊明（昭28），峯 武麿（昭30），森田和之（昭30）， 今泉貴世志（昭31），河田和子（昭32），千原美佐保（昭33），上野美智子（昭34），白松一良（昭36）， 中西洋吾（昭37），山本信義（昭38），城 タミ子（昭38），小野博正（昭41），芦田マサ子（昭45）， 松本逸郎（昭47），相川康博（昭48），上川恒夫（昭48），原田 均（昭51），梅野一福（昭54）， 道津靖子（昭56），中嶋幹郎（昭57），高良真也（昭57），長尾公則（昭61），梶島 力（平4）， 坂田真人（平15），富松規子（平17），卜部 奏（平17）		
クラブOB会だより		57
野球部，硬式庭球部，軟式庭球部		
庶務報告		61
物故者氏名		61
学内記事		62
長薬同窓会役員名簿		64
長薬同窓会支部一覧		65
会計報告（平成17年度決算，平成18年度予算）		66
事務局よりお願い		表III
編集後記		表III



同窓会長挨拶

いよや ひでお
会長 伊豫屋 偉夫 (昭41)

平成18年6月10日に福岡県北九州市小倉で開催されました長薬同窓会総会で会長に選出されました昭和41年卒の伊豫屋でございます。

大学卒業後、長崎県庁に勤務し、薬務行政、環境行政、廃棄物行政等に取り組み、県民の健康を守るために努め、平成14年に定年退職し、その後2年間長崎県薬剤師会に勤務し、昨年6月から自由業として、晴耕雨読の生活を送っています。

その間、長薬同窓会副会長、同長崎支部長を引き受けていた関係で、今回西脇金一郎会長が3期6年の任期を終えられるにあたり、私に白羽の矢が当たったというわけでございます。

115年を超える歴史ある長薬同窓会の発展のため、微力ながら力を注ぎたいと存じますので、皆様のご支援、ご協力をよろしくお願いします。

さて、母校長崎大学も民営化され、国立から国立大学法人となり、自立と競争が要求される大学になっています。また、今年度から薬学部6年制がスタートし、4年で卒業した薬剤師の資質向上が問われることとなり、母校では今年3月薬剤師卒後教育研修センターを立ち上げ、卒後教育研修、公開講演会等を開催し、卒業生の研修に積極的に取り組んでおられます。

このため、同窓会としても、今後、大学とさらに密接な連携を取り、研究と教育の発展に大いに協力をしていこうと考えております。

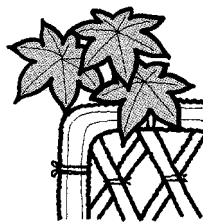
また、同窓会の今年度の事業として、若年会員・女性会員の同窓会活動への参加促進、支部組織の

強化、クラス会の開催・同窓会会費納入など学年理事の協力向上、長崎市坂本町ぐびろヶ丘の原爆慰霊碑周辺並びに諫早市の小野島校舎跡地記念碑の清掃・維持管理などを行うこととしておりますので、会員皆様のご参加、ご支援をお願いします。

なお、種々の動きにつきましては、各役員・支部長・学年理事の皆様のご協力を得ながら、長薬同窓会のホームページに掲載し、皆様にお知らせしていますので、是非アクセスしてみてください。また、会員皆様のご意見もE-mailでどしどし事務局に送っていただきたいと思います。

来年度の長薬同窓会総会は、近畿支部会員の皆様のご協力を得て、6月9日に大阪で開催することにしております。同時にクラス会を開催するなど、多くの会員の皆様の参加をよろしくお願いします。

会員皆様のご活躍とご健勝を祈念申し上げご挨拶といたします。



長薬同窓会の皆様へ

長崎大学薬学部長 まつ
松 むら
村 よし
功 ひろ
啓

長薬同窓会の皆様におかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

さて、昨年4月に学部長の職を拝命して一年半があつという間に過ぎました。この間で最も重要な課題は薬学6年制でありましたが、これを無事スタートさせることができ、安堵しているところです。皆様ご存じのこととは思いますが、本学部は薬学科（定員40人）と薬科学科（定員40人）の2学科制で、且つ、学科毎に入学試験を行う制度をとりました。全国の国公立系17大学の薬学部はすべて2学科制を採用しましたが、一括して入学試験を行い、入学後の3年次に各学科に分けるという制度を取ったところが7大学ありました。これら入学試験のいずれの制度もそれぞれ一長一短がありますが、どの大学も無難にスタートした様子です。

現在、今年入学した新入生が5年次となる平成22年度から始まる6ヶ月実習の実施に向けた諸問題に取り組んでいるところです。それらの一つは新6年制の4年次に受験する共用試験に関するものです。この試験は知識を問う試験(CBT=Computer Based Testing)と技能・態度を問う試験(OSCE=Objective Structured Clinical Examination)に分かれます。前者の試験の実施のために、現在、全国1万人以上と予想される受験生向けの問題作成、合格基準の設定、コンピューターシステムの構築を推し進めているところであり、本薬学部の教員の多くも、これらのいずれかの作業に携わっております。また、後者の試験の実施には、模擬薬局を設置しておく必要があり、本学でも17年度から3年程度の期間をかけてこれを完成する予定であります。模擬薬局は、柏葉会館の東側にあるプレハブ校舎の2階に設置します。

その他、新6年制の円滑な実施に向けて薬学部の教育組織を一部変更、新設しました。変更点は、

旧放射線生物学研究室を薬物治療学研究室に併合したことであり、新設部分は、臨床薬剤師養成センター（センター長、中嶋幹郎教授）を設置したことでもあります。いずれも新6年制の設置、また、その円滑な教育に必須の措置であります。

同窓会の皆様に大きく関係する組織としまして、平成17年度の3月に地域薬剤師卒後教育研修センター（センター長、中島憲一郎教授）を設置しました。このセンターは、今後、薬局実習で6年制教育の一端を担われる薬局薬剤師の皆様の実力のグレードアップ等を目的としております。本年度のプログラム内容は「医療情報の入手と発信のために」「製剤の選択や服薬指導への活用に向けて」の2コースで、既に本年度受講申し込みは締め切りました（平成18年8月末時点）。来年度は「地域医療と女性薬剤師」（仮テーマ）等の4コースを予定しておりますので、皆様方の積極的なご参加をお願い致します。

教育面での新しい試みとしては、「離島・僻地医療に貢献できる薬剤師の養成教育システムの構築」というプログラムを文部科学省に申請していましたが、先般、その内定をいただきました。これは、医学部が既に行っております赤ひげ医療教育プログラムの薬剤師版であり、具体的には、五島地区の薬剤師会、医師会等の組織の協力のもとに平成19、20年度の2年間、上、下五島地区の薬局、病院等の施設で地域医療の実態を学ぶというプログラムです。

また、薬学系大学院のより一層の国際化を目指して、同窓生の皆様からの基金を一部利用させて頂き平成16年度秋から「英語による特別コース」を開講しておりますが、その実績が認められ、文部科学省が平成19年度から始める「国費外国人留学生の優先配置を行う特別プログラム」に採用されました。これにより、博士前期（修士）課程3

名，博士後期（博士）課程4名，計7名の国費留学生が採用可となり，このプログラム開始により薬学系はさらに大きく国際化されると期待しております。

終わりに，最近起こりました大変残念なことにふれておきたいと思います。それは，柏葉会館のすぐ横に植えられていました文教キャンパス随一の銘木で，同窓会の皆様の多くも体験されたと思いますが，毎年3月の卒業式にちらほら咲き始め，4月はじめの頃，薬学部の学生がその下で宴会をしていた桜の木のことです。その桜の大木

が9月17日夕刻長崎を襲った13号台風によって倒壊してしまいました。その側にあるもう一本の桜の木は無事で，これを，今後，大事に育てていかねばと思っているところであります。

以上，昨年来からの薬学部の現状，動きについて記しましたが，同窓会の皆様には，薬学部が今後さらに発展するよう，これまでと変わらず御支援・御高配を賜りますようお願い申し上げます。

末筆になりましたが，同窓会の皆様の益々の御発展，ご健勝をお祈り申し上げます。



平成18年度長薬同窓会総会・懇親会

平成18年度長薬同窓会定期総会は、北九州支部(末宗成二支部長)のお世話で、平成18年6月10日(土)にステーションホテル小倉で開催されました。84名の同窓会会員の皆様にお集まりいただき、無

事終了いたしました。総会・懇親会の模様を一部ご紹介いたします。内容につきましては、庶務報告を御覧ください。



西協会長のご挨拶



参加者



参加者



参加者



乾杯のご挨拶



余興「バナナのたたき売り」



万歳三唱の前のご挨拶



万歳三唱

平成19年度長薬同窓会 総会開催のご案内

期日 平成19年 6 月 9 日(土)

場所 ホテルグランヴィア大阪 (JR 大阪駅ビル)

大阪市北区梅田 3 丁目 1 ー 1 TEL: 06-6344-1235

万障お繰り合わせの上、多数ご参加くださいますようお願い申し上げます。

支 部 だ よ り

関 東 支 部

支部長 富安 一夫 (昭34)

平成18年度関東支部総会は、6月24日に開催いたしました。その2週間前に新しく就任されたばかりの伊豫屋偉夫会長と伊藤 潔会計幹事(昭59)が来賓としてご出席されました。出席者総数は47名でした。樋口幹事長(昭42)から例年どおりの会計報告と事業報告がなされました。同窓会の事業運営については参加者の年配者へのかたよりと出席者総数の減少傾向が続く、樋口幹事長を中心に幹事会でもその対策を検討してまいりました。支部総会が単なる経過報告と懇親会だけでは、情報交換の場ではあるにしても魅力に乏しいのではないかと反省の上に立って計画を立ててきました。対策の一つが総会にあわせて実施する卒後セミナーですし、その他の行事として末澤幹事(昭47)のお世話でビール工場や山梨のワイナリーの見学会を行いました。

卒後セミナーは平成15年度からスタートし総会にあわせて実施しています。15年度からの毎年のテーマは、順に「変貌する医療と薬剤師の役割」、「リスクマネジメント」、「薬学教育6年制への移行と現役薬剤師の抱える課題」と続いてまいりました。いづれも特別講師による約1時間の基調講演と卒業生によるパネルディスカッションで構成されています。今年は第4回目になりますがテーマは「'06年医療制度改革と薬剤師」を選びました。講師には前日本薬剤師会副会長の漆畑 稔氏を迎えました。先生は静岡薬科大学のご出身ですが、実家で薬局を経営する傍ら日本薬剤会代表として中央社会保険医療協議会の委員や社会保障審議会委員を歴任され、医療制度改革の実務にあたってきた方です。折りしもこの講演の数日前に

医療法改正が成立し、医療を提供する体制の確立のなかで薬剤師が次第に重要な任務を持たされてきていると具体例をあげながら説明されました。法改正後の当事者のはじめての講演だったため業界紙の記者も聴講に来ていたようです。原 正朝幹事(昭60)の発案で企画されたテーマでしたがタイムリーだったと思います。今回に限らず毎回講師もテーマもいいと思っていますが、残念なのはいつも参加者が少ないことです。今回の参加者は約50名で、同窓生以外の方が5名でした。長業同窓会の行事の一環として実施していますが、外部にも業界紙を通じてお知らせを出しています。講演はDVDに収録してありますのでご希望があれば実費でお分けします。村山幹事(昭61)までお申し出下さい。

セミナーのほかに新たに始めた行事に「ハーブとアロマテラピー研究会」があります。総会とは別に独立して行う行事です。これは多田和子幹事(昭48)の提案で始まったものです。昨年は10月2日に「心を癒すアロマテラピー」の特別講演と会場近くの小石川植物園で長田敏行園長の案内でハーブや珍しい植物の見学を実施しました。平成18年は10月15日に日赤医療センター会議室で第2回目を実施しました。心を癒すアロマテラピーの2回目の講演のほか、今年はリンパドレナージの紹介と実演や日赤医療センターにおけるハーブを使った園芸療法の話伺いました。植物の生長が患者の免疫機能の回復に影響を与えることなど興味深い話でした。参加者は支部会員外も含めて約30名でしたが、この会も同窓会行事として定着していく予感があります。

最後になりましたが、西脇金一郎前会長(昭33)には大変お世話になりました。市川さん(昭33)の後を受けて懸命に同窓会を支えて下さいました。大学の新組織化や同窓会の運営に格段のご苦労があったことと推察いたします。感謝とお礼の言葉



をのべさせていただきます。ありがとうございます。

ところで、昭和50年から12年間本同窓会東京支部長をされた堀 泰助氏(昭17)が平成18年10月8日に肺炎で逝去されました。84歳でした。東京支部と関東支部の発展の功労者であります。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。なお、救心製薬(株)による「お別れの会」は11月24日都内のホテルで行われました。

日 薬
漆畑氏 「医療保険制度改革論議は具体性欠く」

日本薬剤師会の漆畑穂前副会長は24日、東京都内で開かれた長崎大薬学部同窓会の卒後セミナーで講演し、「年1回の薬価改定や保険免責制などは絶対に反対。そもそもいまの医療保険制度改革論議は、各検討課題の細部にわたる具体的な論議をしないまま突き進んでいる」と、制度改革に向けた与党の姿勢を批判した。

医療領域の歳出削減案として浮上していた保険免責制の導入は、自民党の「歳出改革に関するプロジェクトチーム」(座長・中川秀道政調会長)の具体的な検討課題からは削除はされたものの、漆畑氏は「一定額が保険対象外となれば、患者の負担額は増えても薬局の売上高は下がる。その下がる部分は薬価なのか技術料なのか、その議論すらされずに進んできた。細部を無視した感覚的な論議しかされていないように思える」と述べた。また、「医療関係者の中で、薬の問題に対して最も発言していないのは薬剤師。1人1人が活発に声を上げてほしい。改革内容が決定してから不満を唱えても手遅れだ」と、薬剤師に対して積極的な発言や行動を起こすことを訴えた。

日刊薬業 平成18年6月27日(火)掲載

訃報（堀 泰助元東京支部長）

長薬同窓会元東京支部長の堀 泰助氏（昭17）が、平成18年10月8日、肺炎のため亡くなられました。84歳でした。

先生は救心製薬㈱の社長として薬業界の発展・振興に大きな働きをなさいました。一方、長薬同窓会の発展に意を尽くされ、特に関東支部の前身である東京支部の副会長を経て昭和50年から支部長としてご指導をしてられました。東京支部から関東支部に名称が変更されるまで17年間東京支



部の会長を続けられました。この間、長薬同窓会も変動の時期でしたが先生は優れた指導力と洞察力を発揮され今日の基礎を築かれました。柏葉会館の建設に当たっても物心両面にわたる献身的なご協力をいただきました。

救心製薬㈱の主催による堀 泰助氏の「お別れの会」は平成18年11月24日、東京都千代田区の「ホテルニューオータニ」で執り行われました。

ここに謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

合掌



近畿支部

支部長 白石 哲也（昭32）

本年度の特別講演及び長薬同窓会近畿支部総会・懇親会は平成18年6月25日(日)、大阪弥生会館で開催しました。支部会員の出席者は33名でした。

総会に先立って行われた特別講演は中嶋幹郎先生（昭57）にお願いしました。「母校における薬学部新教育体制と新設された病院薬学研究室」という薬学部6年制の取り組みについての講演でした。

さて、支部会員は403名ですが、総会への出席者は会員の約8%と低調でした。その中でも久し振りの参加や初参加の方が増えた（7名）のは幸いでした。

今年は近畿支部役員（支部長、副支部長、監事、及び幹事長）の改選時期ですが、総会で引き続き全員が留任する事となりました。今後とも支部活動へのご協力についてよろしくお願いします。

これまで近畿支部を支えてこられた大先輩方が亡くなられたり、欠席されたりと総会への出席者

は減少傾向にあります。若い会員の参加を得て、世代を超え、職をこえた交わりの場が出来ればと願っております。

来年度の長薬同窓会総会は近畿支部がお世話することになりました。平成19年6月9日(日)ホテルグランピア大阪で行う計画です。平成11年にヒルトンホテルで長薬同窓会総会を開催してから8年目の事となります。これは近畿支部の活性化をはかるよい機会でもあります。皆様の卒年クラス会などを総会に合わせ計画していただければありがたいと思います。

特別講演・支部総会の概要をお知らせします。
「特別講演」 14：00～15：00

座長 高田充隆（昭52）

中嶋幹郎教授（長大大学院医歯薬学総合研究科
臨床薬学講座病院薬学研究室）
「母校における薬学部新教育体制と新設された
病院薬学研究室」

「開 会」 15：10～ 司会 梶野 繁（昭42）

1. 支部長挨拶 白石哲也
2. 物故者への黙禱

3. 校歌斉唱

「支部総会」議長 白石哲也

1. 庶務・会計報告 遠藤寛子(昭42)
2. 会計監査報告 浅井 武(昭36)
3. 会報No11号の発行について

4. 役員改選

「懇親会」～17:30 進行 赤間みどり(平8)

1. 長葉同窓会会長挨拶 伊豫屋偉夫氏(昭41)
2. 懇親



四国支部

支部長 井上 智喜(昭54)

四国支部同窓会を、平成18年4月22日(土)、春真っ只中、JR高松駅前の全日空ホテルクレメント高松にて開催しました。現在四国支部には88名の会員がおられます。私も来年には50歳を迎えますが、同窓会本部から頂いた名簿を先輩方から順に数えますと48番目に出て参ります。長葉の歴史と伝統に改めて感激する次第です。一方で若い方の名前が少なくなっていることがとても気がかりです。今年四国にも松山大学薬学部が新設されました。徳島大学、徳島文理大学、徳島文理大学香川校に続き4校目となります。四国支部の先輩方また後輩の皆様、今一度長崎での思い出話に花を咲かせながら絆を深めていきたいものです。

さて今回は、私が支部長を仰せつかってずっと参加いただいております小西良士(帝国製薬)先生が所用にて欠席され、少し淋しい会となりましたが、香川3名、徳島1名、高知1名、愛媛1名の6名で楽しい時間を過ごしました。長崎時代の思い出、家庭、仕事、健康に始まり、薬学6年制、薬剤師の将来などなどを熱く語りながら、女性5名男性1名の中で土俵際まで押し込まれ、今

まさに押し出される！SOS、四国支部の男性方お助けあれ!!冗談はさておき参加メンバーを紹介いたします。山下(藤村)みよ子女史(昭46)とても落ち着きのあるやさしさの滲む方です。古立(水口)信子女史(昭46)何事にも前向きで元気をたくさんたくさん頂きました。西岡(穴吹)千鶴女史(昭49)返信の際にも優しい言葉を添えていただき、気配りの素晴らしい方です。森(清水)由紀子女史(昭62)高知の四万十市から駆けつけてくれました。子育てもひと段落、とてもチャームな礼儀正しい方です。前田睦穂女史(平4)只ひとりの平成卒の方で、徳島から参加いただきました。これから益々活躍をされる明るさをお持ちです。最後に井上智喜(昭54)来年度区切りの年齢を迎えます。メタボリックシンドロームを気にしながら、ナイスミドルを目指して頑張ります。

最後に来年の四国支部同窓会は徳島で開催する予定です。数多くの会員の方の参加をお待ちしております。四国8カ所巡りはなかなか難しいのですが、四国4カ所(高松、徳島、高知、松山)巡りならなんとか……。一緒に旅してみませんか。追伸

四国支部同窓会に出席された6名の皆様、私の不手際で6名の集合写真を掲載できませんでした。お詫び申し上げます。

山陰支部

支部長 橋本 覚 (昭52)

今年の支部同窓会は開催していませんが、2月に古川先生を囲み合成化学教室の同門会が松江市美保関町で開催されました。その模様(動画、写真)は <http://www2.ocn.ne.jp/~kaku4/> の山陰支部ホームページに掲載しています。

幹事をされました板倉先生から原稿を頂戴しましたので、平成18年度の支部だよりといたします。

合成化学教室同門会 in 松江 (平成18年)

板倉 忠則 (昭49)

それは長崎での同門会の時、小生の「今度は山陰でカニを食べながら同門会をやるぞ」から始まった。それから数年、偶然にも後輩の中川博史君(昭50)が山陰勤務になった。中川君と小生夫婦三人での準備が始まった。

カニといえば冬。長崎で開局している馬場満輝君(昭49)達の希望で、平成18年2月11日(土)から12日(日)となった。場所は地元の人一押しの松江市美保関町の老舗旅館「美保館」。カニはもちろんフルコース。酒はお金の続く限り飲み放題となった。今回は家族同伴を推奨した。

11日15時、松江駅には古川 淳先生(昭25)ご夫妻を始め、懐かしい面々が続々と集まった。旅館のバスで、雪がちらつく中、漁港美保関へと出発した。山陰の冬景色は水墨画のようだとの声があがり、冬ソナみたいな約1時間を楽しんだ。

18時からの懇親会は古川先生のご挨拶から始まった。篠原亮太氏(昭46)のご発声で乾杯となり、学生時代の気分に返っての懇談となった。長薬同窓会山陰支部長の橋本 覚、悦子ご夫妻、薬

化学教室出身で松江在住の間瀬田千香曉氏(昭47)に特別参加をお願いして賑やかな会となった。橋本君には歓迎のご挨拶をお願いした。宴が進む中、各自、自己紹介を兼ねての近況報告を行った。そして薬学部校歌を全員で合唱し、お開きとなった。

二次会では、中川君から山陰の名所の紹介、古川先生から懐かしい学生時代の写真が披露され、夜のふけるのも忘れて、大歓声の会となった。

翌12日朝食後、古川先生ご夫妻以下、境港水産物直売センターに出かけ、家族へのお土産を。また、酒のつまみを買うなど買い物を楽しんだ。米子駅で次回での再会を約し、帰途に着いた。

お酒を酌み交わしながら、カニを食べながらの同門会。これが小生の長年の夢であり、やっと望みが叶い感無量であった。次回の熊本での同門会(幹事は篠原亮太氏)の楽しみは、馬刺やかからしれんこんと焼酎だと思う。それまで健康に留意して、また皆様にお会いしようと思っている。

参加者：

古川 淳先生ご夫妻 (昭25)	
木下 敏夫先生 (昭35)	渡辺 佳子先生 (昭42)
篠原 亮太氏 (昭46)	小林 義知 (昭47)
間瀬田千香曉 (昭47)	森 賢造 (昭47)
猪平 雅子ご夫妻 (昭47)	
馬場 満輝ご夫妻 (昭49・昭54)	
板倉 忠則夫妻 (昭49・昭53)	
篠原 導人 (院昭49)	中川 博史 (昭50)
黒田 正幸 (昭50)	宮崎 賢三 (昭50)
増田 和久 (昭50)	田原 務ご夫妻 (昭51)
橋本 覚ご夫妻 (昭52・昭51)	
安河内一弘 (昭52)	北村 良二 (昭52)
濱田 哲也 (昭54)	平田 敏男 (昭54)
村野 弘和 (昭54)	吉田 泰史 (昭55)
久保 正樹 (昭56)	



広島支部

支部長 **品川龍太郎** (昭44)

長薬広島支部同窓会を、平成18年8月27日(日)ホテルセンチュリー21にて会員20名の参加を得て開催しました。

会は松浦先生(昭16.12)の乾杯の挨拶に始まり、各参加者の近況報告に耳を傾けながら歓談しました。今回は、来賓として長崎より同窓会長伊豫屋偉夫先生にも出席頂き、母校の近況および、日本ではじめてのまち歩き博覧会である「長崎さるく博'06」のお話や長崎の様子を伺い、変化の様子に長崎がだんだん遠くなるようでちょっと寂しくなりました。今回の参加者の顔ぶれの中に、平成18年卒の若いお二人がおられ会長として非常に嬉しく思いました。会員の方の中には趣味に打ち込んでおられる方も多く、人生を楽しんでおられる様子が伺えました。しかしながら一方でご家族の介護の問題等これから益々大変な時期を迎え

る方もおられますが、皆さん一生懸命取り組んでおられる様子を私も勇気付けられました。薬剤師を取り巻く環境は相変わらず厳しいものがありますが、学校、開局薬剤師、病院薬剤師、行政の会員が協力していかなければならないと思いました。

校歌斉唱のあと、大石先生(昭35)の挨拶があり、最後に長崎大学薬学部の方々の発展と会員の方々の皆様のご健康と一層のご活躍を祈念して万歳三唱し、来年度の再会を約して解散となりました。

参加者氏名

松浦 隆人 (昭16.12)	井上 喬弘 (昭16.12)
工藤 重子 (昭32)	大石 輝雄 (昭35)
橋口 信彦 (昭36)	左利 龍彦 (昭38)
原田 怜子 (昭41)	沖川 正善 (昭41)
清水 捷宏 (昭42)	品川龍太郎 (昭44)
芦田マサ子 (昭45)	曾根 正勝 (昭46)
佐々木啓子 (昭46)	古屋 敏子 (昭47)
青野 拓郎 (昭52)	中牟田弘道 (昭53)
岸川 映子 (昭60)	手島 賢二 (平8)
菅原 隆文 (平18)	吉川 明良 (平18)



山口支部

廣野 善昭 (昭54)

平成18年10月29日(日)に山口グランドホテル(新山口駅新幹線口)において、3年ぶりの長薬山口抜天会(山口支部同窓会)が開催されました。

当日は、長崎より伊豫屋同窓会長の参加を得て、22名の出席があり盛会に同窓会が開催されました。

まず、岡 幸夫氏(昭59)の進行のもと、この十数年間、長薬山口抜天会の会長として山口県内の同窓生をまとめてこられた河野信助先生(昭17)の御挨拶の後、先生の御推薦に基づき、長薬山口抜天会の新会長として若松輝明氏(昭45)を全会一致で選出し、新会長を中心に同窓生相互の協力をより強くする旨を申し合わせました。

次に、伊豫屋同窓会長より、6年制移行に係る薬学部状況や、4年生の卒業生に対する卒後教育に同窓会としても協力している状況、大学のキャンパスや長崎市の近況等のお話があり、懐かしく拝聴させていただきました。

さて、伊豫屋同窓会長のお話の後には、隣の宴会場に場所を移しての懇親会です。末田淳子氏(昭



53)の司会のもと、河野信助前会長の乾杯に引き続き歓談しました。歓談の途中、1人1人にマイクを渡して近況を話していただきました。

また、後半では、河田和子氏(昭32)の提案により、これまで3～4年に1度だった開催頻度を、2年に1回とし、山口県内の140名の同窓生に皆で声を掛けて、1人でも多く出席してもらい長薬山口抜天会を盛り上げようということで意見が一致しました。

最後の締めは、河田啓次氏(昭26)の御発声により盛会に終えることができました。

同窓会は、何時出席しても楽しく、和やかで、暖かいなと思います。先輩方や後輩の方々から明日の元気を頂いた一時でした。

出席者一覧

伊豫屋偉夫(昭41)

河野 信助(昭17)	西村 善行(昭22)
河田 啓次(正寛)(昭26)	河田 和子(昭32)
佐々木(藤吉)恵子(昭33)	大塚 保雄(昭35)
山本 信義(昭38)	西村(滝田)幸子(昭40)
神代 良彦(昭42)	若松(野尻)輝明(昭45)
森重 徹洋(昭48)	今村 明久(昭49)
大平 健一(昭49)	梶山(嶋田)伴子(昭50)
末田(金近)淳子(昭53)	高橋(大庭)久美(昭54)
廣野 善昭(昭54)	有馬(山根)睦子(昭56)
牧野 泰孝(昭58)	岡 幸夫(昭59)
西島(佐藤)恵(平7)	



北九州支部

支部長 末宗 成二 (昭28)

平成18年度 長薬同窓会総会開催 参加者82名!!

と き 平成18年 6月10日(土)

ところ ステーションホテル小倉 (JR 小倉駅内)

今年度の総会は北九州で行われました。担当はこれで3回目です。酒は美味しい、魚はピチピチ、姉ちゃんは別ぴんのお陰で、多数のご出席を頂き本当にありがとうございました。同窓会本部の方々、小島 弘先生 (昭30)、石飛昭汎先生 (昭35)、増田和久先生 (昭50)、久保正樹先生 (昭56)を始め北九州支部の先生方ほか多数ご参加いただき、盛大に行われたことを心よりお礼申し上げます。

総会は予定通り審議事項も終わり、懇親会では余興の「バナナの叩き売り」で大変賑わいました。口八丁手八丁のセリフは大変面白く、お買い求めいただいた先生はお帰りになるまで随分重かったことと思います。

バナナの叩き売りのセリフを一つ

春は3月春雨に 弥生のお空に桜散る

奥州仙台伊達公が

なぜにバナチャンに惚れなんだ

生まれは台湾台中の 阿里山麓の片田舎

土地の娘に見初められ

ポーと色気のさすうちに

国定忠治じゃないけれど

一房二房もぎ取られ 唐丸籠に詰め込まれ

阿里山麓をあとにして

ガタゴトお汽車に揺すられて

着いたところが基隆港 基隆港を船出して

金波銀波の波を越え 海原遠き船の旅

艱難辛苦のあかつきに



ようやく着いた門司港

門司は九州の大都会 門司の港で検査され

一等二等とあるなかに

私のバナチャンは一等よ エンヤラドッコイ

声も勇ましく 問屋のムロに入れられて

夏は氷で冷やされて 冬はタドンで蒸されて

八十何度の高熱で 黄色の色気づいた頃

バナナ市場に持ち出され

一房なんぼの叩き売り

さあ買うたさあ買うた600円だぞ

買え買え買え買え

以上のセリフを自分にあった様に変えていきます。先ず買わせる呼吸が大事。セリフでは渥美 清さんの寅さんはさすがだと思います。

同窓会の翌日は同窓生3人で巖流島に行ってきました。無人の小島で、吉川英治の「宮本武蔵」で知られています。あの有名な「小次郎敗れたり、勝者がなんでその鞘を捨てん」といって怒った小次郎が刀を抜き、武蔵の頭めがけて振り下ろすと同時に、武蔵の櫂の木刀が小次郎の頭を打ち砕き小次郎が倒れました。関門海峡をバックに長刀(物干し竿)を構える小次郎に踊りかかる武蔵の像は大迫力です。是非もう一度北九州に来ちゃんない!!

来年は大阪です。是非行こうと思っています。またお会いしましょう。

福岡支部浦陵会

会長 青木 郁 (昭38)

総会の報告をいたします前に、私自身の経歴を述べさせていただきます。平成16年12月前会長角田先輩(昭33)より会長への就任を依頼され、歴史の重さ、責任の重要さも考えないままお引き受けしました。昭和38年の卒業です。三共株式会社で営業関係(ほとんど九州内で勤務、4年間だけ東京勤務)で過ごし、平成11年9月定年退職し総合メディカル(医療関係専門のコンサルティング並びに医療機器のレンタル、リース、更に調剤薬局・そうごう薬局を経営する会社)で4年間勤務し、現在はNPO法人九州医療システム研究機構(九州中央病院院長杉町圭蔵先生が理事長、他九大医学部教授6名が理事となり、会員並びに一般市民への医学情報の提供の為に公開講座の開催等が主要活動)の事務局を手伝っています。会長として取り組んだことは同窓会会則の整備並びに組織の再構築です。従いまして、平成17年度は新春懇談会(平成18年1月15日アサヒビール園で開催、49名が参加)を開催するのがやっとでした。同窓会誌への報告はしておりません。

平成18年度は、新体制、即ち会長、副会長2名、会計1名、学年企画員、学年連絡員で運営することとしました。今回の総会の運営に関しては昭和38年卒を始めとして10年間隔の卒業生にお願いして企画運営しました。学年連絡員は本人の了解を得るまでにはなかなかうまくいかず現在依頼中です。平成19年度中には完成させたいと考えています。(新三役は会長青木 郁、副会長夏木令子さん(院昭43)、松原 大さん(昭58)、会計内堀繁吉先輩(昭33))

さて、平成18年度総会並びに古川 淳長崎大学名誉教授(昭25)喜寿祝賀講演会・祝賀会について報告いたします。

9月10日(日)13:30から福岡アクロス会議室に於いて、福岡浦陵会平成18年度総会並びに古川 淳長崎大学名誉教授喜寿祝賀記念講演会を伊豫屋同窓会新会長並びに会員44名の出席のもと開催いたしました。今回から福岡浦陵会主催の総会又は研修会は日本薬剤師会生涯研修シートの対象としました。総会の記念講演は福岡市急患センター専任薬剤師として31年間勤務され、「第34回医療奨励賞」を受賞されました成澤哲夫先生(昭26)に「健

康学確立のための基本生活管理について—31年の経験から—」の演題でご講演をいただきました。呼吸の大切さ、即ち酸素補給の大切さ、また嚙むことの大切さ、即ち唾液を飲み込むことの大切さ、更に体の歪みを矯正することの重要さとそのための方法を実演を交え講演いただきました。日常の自分自身の健康維持はもとより薬剤師として医療現場でも役立つ講演でした。総会は以上で無事終了し、次に古川長崎大学名誉教授の喜寿祝賀講演会を開催いたしました。

「長崎大学薬学部・長葉同窓会一半世紀のあゆみ—」の演題でご講演いただきました。先生を除いては語れない長崎大学薬学部・長葉同窓会の貴重な歴史を写真を基にご講演いただきました。昭和前半の卒業生には懐かしく、又思い出深いお話であり、その後の卒業生には長崎大学薬学部変遷の興味ある歴史を知る機会になったと考えます。

ご講演終了後、博多湾クルーズの為、ベイサイドプレイスへ移動、マリエラへ。祝賀会参加の古川教授門下の方々を加え66名で17:00出航、前日の悪天候の影響もなくスムーズに博多湾をクルージング。ヤフードームを海上から望みながらの1時間30分の祝賀パーティーは、古川先生のご壮健を祝い今後のご健康を祈るとともに懐かしい思い出話に花が咲き、無事終了することが出来ました。

平成19年度からの福岡浦陵会の目標は「同門会の活性化と参加したくなる企画運営」です。その為には、学年連絡員を選定し、同級生間の横の連絡の充実を図るべく平成19年度は昭和39年卒、昭和49年卒、昭和59年卒、平成6年卒、平成16年卒の方々から企画員をお願いし、魅力ある企画を計画し実施します。平成19年度もよろしくお願いいたします。

追記

10月は、例年最も天候が安定している時期といわれています。しかし、今年の10月は月初に日本全国が思わぬ荒天に見舞われ、秋刀魚運搬船、遊漁船の遭難、更に白馬岳の遭難と大変な事故が起こってしまいました。私たち昭和38年卒の同級生であり、卒業後、福岡で活躍されていた古賀利枝さんが妹様と共に10月8日白馬岳の遭難で帰らぬ人となりました。同級生間ではもとより長葉同窓生間でも陰になり日向になり、活躍しておられました。先日の総会でもなにかと活躍してくれた彼女です。まことに残念で成りません。皆様にご報告いたしますとともに心からご冥福をお祈り申し上げます。



講演会



祝賀会

熊本支部

支部長 山本喜一郎（院昭55）

平成18年度の熊本支部例会・懇親会は、9月2日(土)に開催しました。会場を何処にして、どんな料理にするかについては、毎年幹事が頭を悩ますところですが、ここ数年和食が続いていることから、今年は中華料理にしてみようということで、2002年開業したホテル日航熊本の中華料理部門「桃李」で開催しました。桃李は美味しいと評判の店ですので、5月には予約を入れていました。

今年は、長薬同窓会本部からは副会長の富永義則環境科学部教授（昭44）にお越しいただきました。富永先生は、長崎からマイカーで来られたのだそうですが、先生のカーナビにはなんとホテル日航熊本が載っていなかったそうです。また、今年度福岡支部に転出した林 稔展くん（平13）も駆けつけてくれました。この機会にがん専門薬剤師の認定を目指すそうです。林くんは、昨年やはり福岡から来てくれた第一薬科大学の松原くん（昭58）と同様、私にとって硬式テニス部の後輩になります。会の翌日は一緒にテニスを楽しみました。

閑話休題

懇親会は例年通り、鶴先生の乾杯のご発声で始まりました。中華料理とは言っても、長崎方式の朱円卓、大皿盛りとは違って、洋室で小皿でのフランス料理のような形式でした。熊本は、長崎と違って濃い味が多いのですが、桃李は上品な薄味で皆さん堪能されたと思います。ただ、配膳が遅れ気味で、参加の皆さんには申し訳ありませんでした。

富永副会長は、長崎からパソコンを持参され、現在の長崎の様子と昔の長崎の様子を対比してプレゼンして下さいました。遙か昔昭和町の薬学部の際にありました附属中学に通っていた私は、当時の写真を大変懐かしく拝見しました。薬学祭で、大きく膨らんだケシの果実を見せられ、これに傷を付けてしみ出す白い乳液からアヘンを抽出するのだとの説明を受けたことを印象強く覚えてます。まさか、自分が長崎大学薬学部にお世話になるとは、当時夢にも思わなかったことでした。ま

た、小林五郎先生の思い出にも触れていただき、我々昭和卒には懐かしいお話でした。更には、「いつも出前授業で披露するんだよ」と仰って、化学発光のデモ実験もして下さいました。ホタルのルシフェリンの発光は見慣れていましたが、赤や青の発光には目を奪われました。富永先生、ありがとうございました。

恒例の近況報告で、鶴先生はちょっと体調を崩されたとお話でしたが、元気なご様子で安心しました。崇城大学の藤原先生（昭45）は、今年初めて参加して下さいました。篠原先生（昭46）は、相変わらずエネルギー満ちます。梶保さん（昭46）は、「熊本はゴルフ天国だ」。平野さん（昭52）、岩下さん（昭52）の仲良し二人組は、昨年は残念ながらご欠席でしたが、2年振りにお会いできました。なんと、岩下さんのご子息は、熊大薬の大学院を卒業された後、一昨年私と同じ化血研へ就職されていたそうです。城下さん（昭61）は、ご多忙中ご出張先の福岡から直接駆けつけて下さいました。秦野さん（昭56）は、相変わらず医薬情報関連や勉強会等でお忙しそうですが、子煩悩ぶりが伺えました。古川くん（昭54）は、熊大薬学部在籍の長男と将来一緒に仕事をするのを夢見ているそうです。山本さん（平15）は、大病院の中堅薬剤師として活躍の一方、6年制となって受け入れる実習生の指導について心配されていました。松尾くん（昭59）は、化血研での医薬開発業務で多忙の中、事務局として、お知らせの作成や郵送、また会場の設定などお世話になりました。私は昨年からの事務職転向で、毎日パソコンとにらめっこです。

ご常連の江川先生（昭48）は、プラハで開催される国際パピロームウイルス学会出席の為、残念ながら今年のご欠席でした。帰りに、ハイデルベルグのドイツ癌センターでセミナーを行われるとのことでしたので、来年の会ではそのお土産話が楽しみです。

今年の例会は、総勢14名の参加でした。もっと参加者を増やして、より有益な情報交換の場としていきたいと思います。熊本支部の例会は、毎年9月の第一土曜日に開催していますので、皆さん是非ご参加下さい。また、他支部の方で、当日熊本にいらっしゃった方も大歓迎ですので、山本ま

でご連絡下さい。



富永副会長によるプレゼン

参加者

鶴 大典 (特)	富永 義則 (昭44)
藤原 邦雄 (昭45)	篠原 亮太 (昭46)
梶保 徳昭 (昭46)	岩下 淑子 (昭52)
平野 玲子 (昭52)	古川 真一 (昭54)
山本喜一郎 (院昭55)	秦野 正敏 (昭56)
松尾富士男 (昭59)	城下 佳秀 (昭61)
林 稔展 (平13)	山本 友紀 (平15)

以上14名、敬称略



後列左から 古川、秦野、城下、富永、鶴、林、梶保、篠原
前列左から 平野、山本、岩下、山本、藤原、松尾

長崎県北支部

支部長 **大隈 直之** (昭23)

平成15年以来休眠していた当支部の同窓会を久しぶりに再開できて、大変嬉しく感慨深いものがあります。諸般の事情があったとはいえ、平素から会員の強い要望意見があったにも抱わず、再開できなかった責任を今回果たすことが出来て一寸安堵した心境であります。特に、今年の復活に当たっては、幹事である現佐世保市立総合病院薬

局長の相川康博先生(昭48)の御配慮と御尽力の賜物によることが大きく、ここに改めて感謝と敬意を表したい気持ち一杯であります。

さて、今年の同窓会は、新しく長葉同窓会の会長に就任された伊豫屋偉夫先生と当支部の地域に所属する関係もあって長崎国際大学薬学部教授の大庭義史先生(特)を特別来賓としてお迎えして、平成18年9月22日に佐世保市港町「東風」において開催いたしました。先ず、伊豫屋同窓会長から

現況報告と事業内容などの挨拶があり、続いて支部長の乾杯の音頭で宴会に入りました。会員一同和気あいあいのなか、和やかな一時を過ごすことができたと思います。

また、今年は例年と異なり、次のような収穫のある実り多い点がありました。

第1は、すでに冒頭に申し上げたとおり、4年ぶりに再開復活できたこと。

第2は、従来は佐世保市とその近郊を中心とした「佐世保支部」が、今年からは佐世保市を含めた川棚、波佐見、松浦、平戸などを包含した地域の拡大により、「長崎県北支部」として発足した初の同窓会であること。

第3は、平成18年4月に新設された長崎国際大学薬学部が当支部のエリア内に含まれ、教授以下会員が参加されたこと。

第4は、これまで殆ど出席されなかった若い会員（特に平成卒）が参加されたこと。

以上のように、懇親会では久しぶりの再会でもあり、途中の自己紹介でもユーモアたっぷりの発言などもあり、非常に意義深い同窓会を楽しむことができました。最後に、今上 亨先生（昭25）の万歳三唱で閉会いたしました。

来賓者：2名。出席会員：32名。

○来賓者

長薬同窓会長 伊豫屋偉夫（昭41）

長崎国際大学薬学部教授 大庭 義史（特）

○出席会員

大隈 直之（昭23）	白川 學（昭23）
塚本 實（昭24）	今上 亨（昭25）
松田 雄光（昭25）	牟田 良夫（昭25）
末武 和子（昭29）	今泉貴世志（昭31）
林田 匡代（昭36）	副島 敬子（昭39）
松本 功治（昭41）	島田志津枝（昭45）
大井 和子（昭47）	田代佐夫子（院昭48）
相川 康博（昭48）	橋本 次男（昭50）
横山 智子（昭55）	東 三郎（昭56）
岩竹 芳博（昭61）	荻野 清子（昭62）
松本 直樹（院平1）	松本 玲子（平1）
井手 指月（平2）	吉居 良子（平9）
秋葉 由里（平9）	秀島久見子（平12）
森 善洋（平18）	

○長崎国際大学薬学部関係

榊原 隆三（院昭50）	小笠原正良（院昭51）
萩森 政頼（平13）	一瀬 沙織（平16）
大神 正次（平16）	



島原支部

支部長 宮崎 圭介 (昭31)

春の花も終わり新緑が青空にまぶしく感じられる4月23日(日)に、支部の休眠状態を大変心配しておられた西脇前会長のご出席を頂き、支部より9名が出席して雲仙市国見町神代地区で支部会を開催しました。

この神代小路地区は昨年6月に国の「重要伝統的建造物群保存地区」に指定されており、江戸中期の歴史を偲ぶことが出来る場所です。この中心である鍋島邸前に集合し、近くで開局しておられる小林 茂・和子ご夫妻(昭45)の丁寧な説明を聞きながら約1時間散策して、枯山水の庭園に咲き始めのツツジを愛で、小路沿いの屋敷や石垣に当時は偲びました。また、最後には御影石で造られた鍋島家の歴代のお墓にお参りました。

心地よい疲れを覚えた頃、近くの旅館で昼食をとりながら懇談会を行いました。西脇前会長より学部や同窓会の現状をお聞きしましたが、「支部会の活性化は女性と若い層の参加がキーポイント」

だとのお話で、支部会終了後に当日の様様や欠席者の便りなどを載せた会報を作成し支部全員に送付しました。支部は数少ないメンバーでありますので、絆が少しでも強くなる方策を考えながら連絡を取り合っていきたいと思っております。

参加者中一番ご高齢の田島輝彦先生(昭22)は相変わらずの笑顔と元気な姿で、まだ現役で学校薬剤師や調剤業務にご活躍中との話に大変刺激を受けました。参加の皆さんは、島原半島の恵まれた湧水とおいしい海や山の幸、美しい自然の風景の中で心豊かに生活しておられるためか、年齢を感じさせない若々しさでした。今後は、もっと若い層が多数参加した支部会の報告が出来ることを望んでおります。

最後に、西脇前会長より「美しい新緑と小鳥のさえずりを聞きながらの散策と、地元の食材を使ったおいしい料理での懇親会は健康的で今後の同窓会のあり方の参考になる会であった」とお褒めを戴き、今後の大変な力となりました。

参加は田島輝彦(昭22)、宮崎タツ子(昭30)、酒井裕子(昭30)、宮崎圭介(昭31)、早崎忠信(昭37)、織田美智子(昭41)、藤田立明(昭44)、小林茂(昭45)、小林和子(昭45)の皆さんでした。



長崎支部ぐびろ会

会長 山中 國暉（昭43）

今年度の長葉同窓会長崎支部ぐびろ会の総会は平成18年5月27日(土)午後6時から長崎市筑後町のセントヒル長崎で約30名の出席を得て開催しました。司会は馬場満輝氏（昭49）で議長に井石政之氏（平4）を選出し議事に入りました。

議題

- 1 平成17年度事業報告 会長伊豫屋偉夫(昭41)
定期総会開催 平成17年6月11日(土)セントヒル長崎
昨年議決された薬学部教育研究活性化基金への案件の件
今年度2件、各教室に20万円寄贈
中島憲一郎教授（昭46）の研究室
中嶋 幹郎教授（昭57）の研究室
- 2 決算、監査報告
決算は会計担当の濱田哲也氏（昭54）
監査は田原 務氏（昭51）により報告され
すべて承認

3 会長改選

伊豫屋偉夫会長が長葉同窓会会長に就任されるのに伴いぐびろ会の会長改選
新会長に山中 國暉（昭43）選任

4 平成18年度事業計画、予算

定期総会開催
長崎大学薬学部の長葉同窓生が教授の研究室に研究費として20万円寄贈の件
予算
その他

上記4項目全て承認されました。

その後、新会長就任挨拶において同窓会の活性化・総会出席数の増加など多くの課題について皆様のご協力をお願いしました。懇親会の前に中島憲一郎教授よりパワーポイントを用いて薬学教育6年制移行問題を説明して頂きました。所謂、薬学研究を行う新4年制と並列し薬剤師養成する新6年制へと変わる薬学教育のことでございます。大学がこの制度に取り組む意気込みを感じ地元同窓会支部として強力にバックアップすべきだと考えます。引き続き懇親会に入り楽しいひと時を過ごしました。



クラス会および近況だより

忘却できない被爆学生の体験レポート

大隈 直之（昭23）

「忘却とは忘れ去ることなり。」という言葉があることは、皆様ご存じの事と思う。

私も80歳をこえる物忘れの多い年令を迎えたが、冒頭の言葉だけは、どうしても私には通用しない体験があるからである。それは、勿論現在生き残っている数少ない被爆学生の1人だからである。この体験は、決して忘れることができない、忘れてはならない。その恐るべき破壊力や殺傷力のすさまじさは、体験者のみが知り得る現実である。私は、この記憶を被爆以来50年及び60年の節目の年を迎え、関係者にも知って貰いたいし、伝えて貰いたい気持ちで、このペンを走らせた次第である。この事実、大学の沿革や歴史に残る出来事の一つにあげられることは、間違いないと思う。従って、この私の体験レポートを御判読頂き、今後の参考の一助となれば幸甚である。

下記の記事は、私が、被爆50周年を迎えた節目の年に、被爆体験記を作製して記載した文章の要旨を、長崎新聞の取材をうけ、まとめた記事である。（平成9年6月12日付）

記事全文

忘れられぬあの日私の被爆ノート

19歳だった。この年の4月に長崎医科大学附属薬学専門部（現 長崎大学薬学部）に入学、浜口町で下宿生活を始めた。だが、戦況の悪化で講義は満足に行われぬ。間もなく三菱電機長崎製作所で働くようになった。

9日は午前8時半から工場に出た。10時50分からの休憩の時「広島に新型爆弾が落ちて大きな被害が出たらしい」と聞いた。

11時に仕事を再開した途端、突然、紫白色の強い光が目の前を走り「ドカン」「バリバリ」と激しい音がした。窓ガラスが粉々に壊れ、屋根がつぶ

れた。負傷した人の悲鳴やうめき声が、そこら中から響いてきた。窓際にいた作業長は、ガラスの破片で顔中が血だらけになっていた。私は、後から倒れてきた鉄の棒の下敷きになったが、「大変な被害に違いない」と直感し、痛みをこらえて外に出た。屋外にもたくさんの人が倒れていた。十数人いるはずの同級生は1人しか見当たらなかった。私は比較的元気だったので負傷者の搬送を依頼された。ガラスで血だらけだったり、足や腕を骨折したり、皮膚が真っ赤に焼けただれたり、怪我は様々だった。

午後3時過ぎに工場を離れる許可が出た。実家の疎開先の佐賀県武雄市に戻ることに決め、浦上から道の尾方面を目指した。住宅街は火の海が続き、体に火の粉がふりかかった。長崎製鋼所の裏を走り、大橋球場を横切って線路によじ登った。街のあちこちに死体がころがっていた。線路伝いに歩いて午後7時過ぎ、道の尾に着き、炊き出しの行われていた道の尾国民学校で一晩過ごした。翌日、負傷者を満載した列車に飛乗り、諫早で乗り継いで肥前山口へ。そこからは徒歩で帰った。

11日午前2時頃、ぼろぼろの風体で武雄に着き、驚く母に「長崎にすごい爆弾が落ちて、やっと逃げてきた。」とだけ告げ、そのまま眠ってしまった。ひどい下痢が2週間続いた。爆心地に近い下宿は跡形もなく、下宿の母娘と3人の仲間のうち2人はそれっきり消息が分らずじまいだった。残る1人は、亡くなった、と後日聞いた。

私の願い

核兵器使用を絶対に二度と許してはならない。残酷な被爆体験の教訓が、風化することなく、歴史的事実として永久に語り継がれることを願う。

下記の英訳の文章は、被爆60周年の節目の年を迎え、上記の文章を佐世保市立福石中学校の小宮

教諭御指導のもと生徒の課外活動の一環として協力して頂き、作製されたものである。(平成17年12月21日完)

記

英訳全文

My Unforget-Table Memory Testimonies of the Atomic Bomb Survivors

Mr. Nawoyuki Okuma

(6/12/1997 Newspaper Nagasaki)

I was 19 years old. In April of that year. I entered the pharmaceutical department attached to the Nagasaki Medical College. which is now the pharmaceutical department of Nagasaki University, I took up lodging in Hamaguchi-machi.

The lectures weren't satisfactory because the war situation was getting worse and worse. I worked at the Mitsubishi Electric Corporation in Nagasaki as a mobilized student.

On the ninth. I went to the factory at half past eight in the morning. From 10.50 it was break time. I heard that a bomb had fallen in Hiroshima and caused great clamage. At eleven o'clock work resumed. An intense purple and white light flashed before my eyes, the windows crashed and the roof collapsed. Shrieks and groans of wounded people were vibrating from all over. The foreman, who had been by the window, had blood all over his face from the fragments of broken glass. A massive iron pillar collapsed from the back and crashed on me with great force. I'm sure that it must have caused terrible damage. I went out enduring much pain.

Many injured people were lying outside. I couldn't find even one classmate, although my classmates should have been there. Because I was less injured than everyone else. I was asked to carry the wounded people.

There were various people injured in different ways: bloodied by glass. Broken arms and legs, burnt and festered skin. Permission was given to us to leave the factory around 3 O'

clock in the afternoon.

I decided to go to Takeo in Saga Prefecture since my family had been evacuated there. I left in the direction of Michinoo. Many houses were burning violently, showering me with sparks. I ran through the backyard of Nagasaki Ironworks, crossed Ohashi Boll Park and climbed up the railroad track.

There were many bodies strewn here and there on the ground.

Walking along the tracks. I arrived at Michinoo Station past seven in the evening. I stayed at a school where emergency food was being served. The next day I jumped on a train carrying the wounded, and changed trains at Isahaya Station and proceeded to Hizen-yamaguchi. I went home on foot from there. Around two in the morning on the eleventh. I reached Takeo in a tattered state. I told my mother that an enormous bomb had been dropped on Nagasaki and that I had managed to escape. As soon as I told her, I fell asleep. I had severe diarrhea for two weeks. My boarding house near the hypocenter was gone. The woman who ran the boarding house and her daughter, two of my friends, were missing. Afterward I heard that another friend had died.

My Wish

We must not permit the use of nuclear weapons ever again.

The bitter lessons of the cruel atomic bomb experience must not fade away, they must be handed down as historic truth to future generations.

Translated by Fukuishi junior High School Sasebo
付言：私の信条を下記のとおり披露しておく。

記

- 1, 忘れてはならない。
- 1, 許してはならない。
- 1, 使ってはならない。
- 1, 作ってはならない。
- 1, 持ってはならない。

以上

長崎地区の26年卒会

中倉 敬昭（昭26）

光陰は矢の如し、…とか。

かつて自然だけは豊かであった諫早の小野島校舎と、その付近で、よく遊び、よく遊び、少しは学んだ若者も、つまり昭和26年卒の中では最も若く年下の昭和5年生まれの者と、昭和6年早生まれの者でさえ、とうとう満75歳に到達し、今日では、いわゆる後期高齢者と呼ばれる種属となり、昔ならば、ものすごいジジとババになってしまっているのです。

個人差はありましようが、老化現象だけは避ける事が出来ないで、生きていれば、足や腰の痛みなどを大なり小なり口にする様になっているようです。幸い、今回の長崎地区26卒は昨年と同じメンバーで、長崎からは、本多、峰、篠田、永江、江頭、立石、田中（天本）と、佐世保からは貞方、中倉の計9名が集まりました。最も参加したかったであろう諫早の黒田隆次君が今年も足腰の不調のため不参加であり残念です。昨今は熟練した優秀なドクターの手にかかれば、高齢でも、オペの成功率が高く、その実例も多いと聞くなど、私どもの話題にあるのですが、むしろ彼自身こそが真剣に考えているものと思います。ですからなんとか、1日も早く良くなってもらいたいのです。

集まったのは、平成18年3月25日(土)。今回の諏訪神社祝寿祈願の該当者は2名。喜寿の田中九王（天本）君と筆者の私、中倉敬昭。今回は私が該当者なので、この会報の投稿は、他の誰かがやるように願ったのですが、会長の篠田君が「無責任記は今回も中倉が書け」と言うので、会長命に素直に従ったのです。

諏訪神社参拝後、例によってセントヒル長崎で昼食。昼食後には昨年の会報に、傘寿のプロフィールとして記載した、かつて小野島時代、お寺の納骨堂の隣部屋に寝起きし、学問にはげんだ？盟友、峰 唯信君が、車を運転し、私を満開間近い桜の立山公園から、長崎東高等学校校舎、更に坂本の外人墓地を経由してセントヒル長崎の玄関までの一周を案内してくれたのです。その日は絶好天に

恵まれ、高台から展望した桜を始め、起伏に富む長崎の市街、そしてそれに続く遙か長崎港などなど、正に絶景と言う可く、本当に好いものを見せてもらいました。

峰先生自身（私よりはるか先にお生まれになって居られるので、ここでは先生なのです。）は昨年（平17）が傘寿というご老体ながら、長崎のあの坂道、そして細い道を、いとも簡単にスイスイと運転なさるのです。その素晴らしさは言うまでもないのですが、彼の親切さと昔変らぬ人柄には、只頭が下がり感心するばかりでありました。

ところで今回喜寿の田中君ですが、私どもの小野島時代は天本君でした。聞けば、その後、望まれて田中姓の養子となつたらしい。更に彼は小野島校舎の3年間ではもの足らず、もっと学校に行きたい、勉強したいと、当時学生改革でスタートした4年生学部編入し、昭和28年、長崎校舎での第1回卒業生でもあるという学徒であります。

さて、セントヒル長崎の一室では、例によって、佐世保の貞方君と私が、長崎の本多君と篠田君を相手に夕刻の会食時間まで碁会です。

特筆すべきは、一昨年（平16）が傘寿該当者だったこの会の最高齢者、圓チャンこと本多圓次先生（峰先生と同様、私よりはるか先にお生まれになって居るので、ここでは先生なのです。）であります。月日が、はっきりしないので申し訳ないが、多分今年の2月か3月の或る日でした。私は佐世保の自宅で、過日長崎市で開催されたNBC 囲碁大会の様子でも見ようかと、なにげなくTVのスイッチを入れてみると、圓様の颯爽とした対局態度が大きく写し出されたではありませんか。息を飲みましたね。

囲碁の内容がサッソーとしていたかどうかは知る由もないですが、プロのカメラマンが彼をとらえられたのは、恐らくご老体の中でも一際^{キツ}恰好が良かったからでありましよう。事実今回の対局で、私も貞方君も彼の確かな上達ぶりを認めたのであります。聞けば、碁会所にでかけ、元気で楽しん

でいる由で、お見事です。趣味を楽しみ、その意欲が劣えない人は、如何に高齢化しようとも、上達するのだ、という証左を改めて思い知ったのであります。

かつて食うに困った小野島時代、飢えたハイエナの如く、皿の端までなめつくした若者も、今ではご馳走の多くを余し、残すのです。もったいな

いのです。正に隔世の感ひとしおであります。

「この会も高齢となったので近くストップを念頭に置く可きでは」と言う篠田会長の提言に、「その時は、その時さ、会長一任」というみんなの意見でお開きとなった次第であります。

(平成18年9月8日記)



平成18年3月25日 於 諏訪神社

篠田 立石 永江 貞方
峰 田中 中倉



平成18年3月25日 於 セントヒル長崎

立石 永江 本多 貞方 江頭 峰
中倉 田中 篠田

随 想 3 点

服部 俊明（昭28）

回天 特攻基地の回想

回天とは第2次大戦末期、日本軍が敵艦に体当たり攻撃を加える為の人間魚雷である。僕等の中学では軍の命令で学徒動員となり、回天の出撃基地の設営に当たっていた。6月23日沖縄の陥落後は本土決戦に備え下松の特攻基地は一層の緊迫状態となった。

魚雷搭乗の特攻隊は、月月火水木金で休む間もなく激しい訓練を重ねていた。その中、米軍の本土空爆は日増しに激化し焦土と化していった。戦況は学徒にも生きて慮^り囚^りの辱めを受けずと1億玉砕態勢となった。だが広島と長崎が原爆の洗礼を受け遂に8月15日、玉音放送を聞いて終戦となった。

では今迄の断末魔^{ごうせん}の抗戦は何だったのか。忽ち下克上。階級章が外れた一部の上官は途端に低姿勢となり逸速く官品を略取して遁走した。

それまで、強制連行の朝鮮人労働者はどん底で過酷な重労働に噴^{さい}まれ続けていた。そして、その時彼等は真夏の雲一つない青空を仰いで腹^{よじ}を振り、涙を流し、小踊りして歓喜した。

師 範

明治維新以来我が国は近代国家の仕組作りは教育からだと考えた。先ず手掛けたのは明治5年、全国民にモデル提示を目標に各県に1校ずつ師範学校を作った。

以後急速に学制を整備したが、当初の5年間は師範が名実共に最高学府として君臨した。依って師範出の先生は筋金入りで、生徒には勿論一般社会でも崇高な権威ある存在であった。

辞書によれば師範とは人格的にまた学問や芸芸の手本となり模範となって教授する人となってい

る。そして此の制度で日本は脱亜入欧近代国家として西欧に追い付き追い越せと云う国策にまで発展を続けて行った。

戦後60年経って今、教育の荒廃と社会の劣化は目を覆うばかりである。教育制度は戦前の体制はるかに社会に適合していたと思う。学校は作れば良いと云う物ではない。社会のニーズと将来を見据えた長期展望が必要だ。

全寮制の旧師範学校の復活と学制は旧制度に戻した方が良い。之は教基法改正以前の問題だと史料する。

珍しい体験

とある田舎町で不思議な広告を見つけた。明朝8時A旅館の広間に10名様早いもの勝ちと。

業者は先ず早朝来場を謝してティッシュボックスを配った。次々に新しい話題を提供しては一体感を盛り上げ砂糖や味噌醤油等を配りまくった。

客はタダでこんなに貰って申し訳ない。何か先方の希望に沿ってやりたいと思い込ませた。また健康の大切さを自然体で訴え続けた。

十分客の反応と心理を読み取り汗をふきふき本命の敷ふとんの紹介を始めた。決して売るとは言わず、宣伝だと言った。特に東北大の有名教授の新案を商品化の為実験を重ねたと理解と信頼を求めた。半導体のゲルマニウムとヒ素を特殊加工し繊維化し敷ふとんの開発にやっと成功したと言った。

安眠を誘い肩こり、不眠、頭痛。冷え性、便秘、腰痛にも効くとまことしやかに言った。

今日は宣伝だから30万のところ半額の15万で都合するが、在庫の都合で是非の方5名様にしか対応できない！と、直ちに6名が手を挙げて残った。

三 朋 会 だ よ り

峯 武麿 (昭30)

今年の三朋会は関西が担当となり10月11日～13日宇治、伏見で開催しました。昭和30年に卒業した私たちは42人の級友でしたが、今年6月に栗林友之助君が亡くなりこれで10人のクラスメートが物故しました。

今年の三朋会も当初21人の予定でしたが帆士君から持病の関係で長時間の旅行を医者に止められ、参加できず残念との連絡があり、常連の郷野さんが緊急入院、また今まで皆勤の馬詰さんが腰痛のため参加中止となりました。一方で黒岩、副島君の奥さんが参加され19人となりました。今回の集合場所は京都から近鉄急行で25分の京田辺市にある厚生年金施設のウェルサンピアでしたが、京田

辺市は同志社大学のキャンパスが移転し、活気ある街で宿舍もキャンパスの中を通り抜けた高台にあり、閑静ないいところでした。

午後6時半栗林君をはじめ亡くなった級友を偲び黙禱し開宴、楽しい談笑の後別室で黒岩、江口、小島君を中心に薬学教育のあり方、薬剤師の将来について熱心な議論が交わされました。

翌12日は観光バスでまず世界遺産の宇治の平等院を訪問し、改装になった10円玉でおなじみの鳳凰堂や宝物殿を拝観した。次にお茶所宇治で江戸時代のお茶壺道中の歴史を残す上林記念館を訪問、宇治河畔の「竹林」で京料理を賞味したあと宇治川をわたり、世界遺産の宇治上神社（日本最古の



三朋会 平成18年10月11日 於 ウェルサンピア京都



神社建築)に参詣した。それからムラサキシキブが咲き乱れる源氏物語ミュージアムへ、宇治は紫式部の源氏物語の最後の部分である宇治十帖の舞台であり、このミュージアムでその中の「浮舟」の映像を鑑賞し、しばし幽玄の世界に浸りました。その後訪問した黄檗宗総本山の万福寺はさすがに広大で建物のほとんどが重要文化財であり、有名な木魚の原型となる魚板や黄檗(キハダ)の大樹等興味大なるものがありました。第1日目の最後は一休さんが晩年を過ごされた酬恩庵(通称一休寺)を訪問、一休さんといえばトンチ小僧の印象が強いのですが、本当は後小松天皇の皇子であり、ここにある墓所は宮内庁の管轄の由、ここでは住職から直接寺の来歴、由緒や枯山水の庭園について詳しく説明していただき、翠濃く静かな佇まいの印象に残るいいお寺でした。

2日目は伏見に場所を移し、まず宇治川派流を十石舟で船頭の説明を聞きながら伏見港近くの三栖閘門まで往復、河岸の柳の翠が綺麗で往時の大阪までの三十石舟に思いを馳せました。舟旅のあ

と月桂冠大倉酒蔵の記念館で酒造りの説明を聞いたあと3種類の利き酒をしました。ついで坂本竜馬が京都所司代見回り組に襲われた寺田屋を訪問、当時の客室、柱に残る刀の傷跡等を見物し、最後に黄桜酒造で私たちの年代には懐かしい黄桜のコーマシャルでおなじみの清水昆、小島功のカップの原画を見たあと黄桜カップカントリーで昼食をとり、午後3時ごろ京都駅で解散しました。

私たちも70代なかばで何があってもおかしくない年頃となり、今回も2,3のハプニングはありましたが、こうして元気に同時代を共有したものの同士で気兼ねなく歓談できるのは楽しい限りです。来年は小島、副島君のお世話になりますが、それまで元気で再会できるのを楽しみにしています。(出席者)

江口 嶧, 川上万里, 小島 弘, 黒岩幸雄, 黒岩夫人, 甲斐盛央, 高橋 侃, 西 義一, 山本 勲, 森田和之, 副島英夫, 副島夫人, 山戸 寿, 歙塚紀子, 田中熙子, 宮崎タツ子, 酒井裕子, 峯 京子, 峯 武麿

未来に響け 平和の旋律

森田 和之(昭30)

2月のある夜、札幌こどもミュージカル育成会会長の細川真理子先輩(昭29)から突然電話があり、4月にワルシャワ、ローマで公演することもミュージカルに出演して歌って欲しいと強引に誘われ、4月18日、まだ残雪も見られる札幌に赴いた。

札幌TVのホールで初めて子供達と舞台でリハーサル。長崎の子供達9名も既に前日に到着していた。脚本担当の元NHK会長川口幹夫先生や後援会の皆さんも揃って、力強く壮行会が行われ、20日早朝、成田からワルシャワに向かった。

細川先輩は、長崎古町教会の園田牧師のお嬢様。昭和29年に卒業後結婚されて、札幌の発寒中央病院院長夫人として仕事され、25年前から札幌こどもミュージカル育成会を立ち上げ、活動されている。特にアイヌの民話を基に幾多のミュージカルを作って上演し、多くの賞も得て注目されていた。

ポーランド国営TVとも交流し、過去2回公演に出向いている。

2000年に、アウシュビッツ収容所を見学した子供達から、「今の大人たちは戦争のことを教えてくれない」との呼び掛けもあり、戦中、戦後を長崎や東京などで、戦災孤児の救済に国境を越えて献身的に尽したポーランド人のゼノ・ゼブロスキー修道士と子供達をテーマに「ニンゲン コレ ミナ オナジ」を作り、札幌で上演し好評を得た。ポーランドで上演すべく進めていたが、「9・11」同時多発テロが発生したため、遠征は中止し、代わりに2002年、東京と長崎で原爆の日に上演した。私も東京でフィナーレの舞台に参加した。

今回、「ゼノさんへの感謝の旅」として、1930年にゼノ修道士らを伴って長崎に来日し、後にアウシュビッツで身代わりになって殉教されたコルベ神父が設立し、ゼノさんもいらしたワルシャワ郊

外のニエポカラヌフ修道院の大聖堂で上演。さらに、6世紀頃に建てられたローマの由緒ある十二使徒教会の大聖堂や、ワルシャワのミュージカルのロマ劇場での上演。それに、ヴァチカンでローマ教皇の謁見に特別参加し、子供達の「マリア賛歌」を聴いて頂く。これに、ヴァチカンTV、ポーランド国営TV、札幌TV、北海道新聞、音楽の友社なども参加する遠大な計画を、各方面の支援を得て実行することになった。子供達は、5歳から18歳の49名。川口幹夫先生が残念ながら足を痛められて同行を断念され、先輩のご主人の細川病院長を団長に、父兄、スタッフなど総勢120名の大所帯であった。

ワルシャワに到着早々に、旧市街、ショパン像前、文化庁、ワルシャワ大学、国立音楽学校、日本大使館等を訪問し、歌の披露、市民や子供達との交流が行われ、小野ポーランド大使ご夫妻らの温かい歓迎を受けた。翌日からニエポカラヌフ修道院に泊り込み、神父さん、市民、さらにはゼノさんの郷里から見えたご親戚や大勢の子供達に囲まれて、修道院内のホールで熱演した。メインとなった大聖堂での上演には、3500人の観客が詰め掛け、国営TV5台、札幌TVで全国に放映された。ゼノさん役を演じた青年は、母親がポーランドの方で、彼が発する「戦争はいけません、殺し合いはいけません」という言葉や、幼い5歳の幼児達が叫ぶ愛と平和の歌声は、大聖堂を揺るがし、今も耳から離れないほど印象的だった。

アイヌの民話を基にした創作ミュージカル「一つのお椀でトウミクミク」は市内のロマ劇場で上演。細川病院長と共に私も、2本のミュージカルその他に、長崎のお寺の僧侶役やアイヌの家族役で出演し、オペラと異なるリズムに戸惑いながらも歌って踊った。

4月26日、世界中から信徒ら5万人が集まったヴァチカンのサンピエトロ広場の最前列に招かれ、ローマ教皇ベネディクト16世に謁見し、特別に子供達が歌う細川先輩作曲の「マリア賛歌」を聴いて頂いたが、ローマ教皇からお礼の握手を受けた細川姉妹は感動の涙。その模様は、ヴァチカンTVニュースで全世界に放映された。夜は、ローマ中心部にあるミケランジェロの豪華なフレスコ画で飾られた十二使徒教会大聖堂の荘厳な祭壇で、ミュージカル2本のダイジェスト版を上演した。此处は、コルベ神父が属するコンベンツアル聖フランシスコ修道会の本部である。4月28日、連日連夜の強行軍にもめげず、無事成田に着いた子供達は、大いなる自信を得て目を輝かせて、元気に北と南に帰って行った。

今回の巡礼の旅は、細川先輩が発する「愛と平和へのメッセージ」を、可愛い親善使節である子供達の歌声で全世界に届けられた素晴らしい旅であった。同行した北海道新聞、聖母の騎士などで逐次報道され、「音楽の友」でも紹介されました。6月には、札幌TVで制作したドキュメンタリー番組「平和の旋律～細川真理子が奏でた25年～」も放映された。

細川先輩ご夫妻、音楽指導、振り付けで妹さんの岩城節子さんご夫妻、それに多くの後援者の方々が一体になって、未来に向かって子供達の教育音楽活動に努められ、愛と平和のメッセージを全世界に送られている姿を拝見し、お手伝いできたことを嬉しく思っている。

長葉同窓会の皆様からも、細川先輩の呼びかけで「ゼノさん募金」にご協力頂いたが、各方面から多額の献金が集まり、ワルシャワで修道院長に手渡され、修復に役立てられました。





森田 細川（昭29） 川口 元 NHK 会長



ニエボカラヌフ大聖堂とコルベ神父像



平和の旋律 —細川眞理子が奏でた25年—
札幌テレビ放送 DVD



細川団長 森田

森田

卒後50周年記念同窓会

今泉貴世志（昭31）

長崎大学薬学部第4回生は昭和31年に卒後しました。女性19名男性25名計44名で、平成18年は卒後50年の記念すべき年であります。そこで今年は、長崎で盛大にやろうという事になり、幹事を長崎在住の桑山晶子（深江）さんにお願ひし、私今泉が佐世保から応援するという事で計画しました。

長崎なら丸山の「花月」だという事で、平成18年5月21日(日)丸山「花月」、22日(月)雲仙「湯元ホテ

ル」ととなりました。卒業時44名だった同級生もこの50年の間に女性3名男性5名が故人となっております。さびしい限りです。

よく呑み、よく遊び、そして時々実習した生き残り仲間25名（女性11名、男性14名）が長崎の地に集り、一夜大いに盛り上がりました。花月の女将は昔佐世保で私の家の近所のホテル（天皇皇后両陛下や皇族方も泊まれた）の女将で、良く知っ

ていたのでサービスして貰い、丸山検番から芸者さんも来てぶらぶら節を披露してくれました。

翌日はシャトルバスで長崎市内を観光後、文教町の薬学部柏葉会館で西脇金一郎同窓会会長（昭33）に講演して貰い、薬学部内を見学し、雲仙へと移動しました。

雲仙では宮崎圭介君が幹事役で天気にも恵まれ、高齢者の集団は2日間を大いに堪能して23日(火)に解散しました。

この同窓会も昭和30年代～50年代迄は4年毎の

オリンピック開催の年に福岡、東京、関西で行っていましたが、もう後も長くはないだろうから毎年やろうという事になり、今は毎年行っています。東京、横浜、箱根、大阪、有馬温泉、宮島、小倉、博多、武雄温泉、雲仙、ハウステンボスと全国各地へ旅行ができます。お陰で70歳過ぎているのに皆元気です。来年平成19年度は大阪の予定です。以上50周年記念同窓会について書いてみました。



昭和32年卒クラス会だより

河田 和子（昭32）

歳月の過ぎゆく早さを実感するようになり、またクラス担任としてお世話になった一番ヶ瀬先生がご壮健でクラス会に出席して下さることもあって、何年か前から毎年開催するようになりました。

来年は卒業してから半世紀になりますが、その間既に9名の方が鬼籍に入られました。今年会っておかなければ……その思いが年毎に強くなっていくような気がしています。ということで来年は卒後50年のメモリアルクラス会、一人でも多く集まりたい。長薬同窓会総会に併せて関西でという案も出ましたが、結局青春時代を過ごした長崎へ

の想いが強く、長崎での開催が予定されています。

今年は5月に博多で、幹事は元気いっぱいの榊さんと昨年の会で決まっていたが、鬼のカクラン？幹事さんが病気になられ今年は中止かと危ぶまれたのですが、「それまでには元気になりシャンソンを歌うから」とたつての希望で代理の幹事（若松の波多野さん）で予定通り開催の運びとなりました。

さて前置きはこれくらいで今年のクラス会の報告をいたします。5月25日福岡山の上ホテルに16名のクラスメート、一番ヶ瀬先生、榊さんの歌の伴奏をして下さる方が集まりました。代理の幹

事役3名は地理にうとくて、事前に道順など確認していましたが、私などはやっとたどりついた気がしました。

しかし、静かで夜景も美しくお料理も美味しくて良かったです。榊さんは車いすでの参加でしたが元気いっぱい、励ます会のつもりが健康な私たちの方が逆に生きる元気を頂いたような気がしました。

古希の坂を越えて自分自身は健康でも、パートナーの具合が悪く出かけられないとか、自分も体調が優れないとか、威勢のよい話題は少ないのですが、これからの生き方のことなど語りあかしました。

翌日は大宰府の国立博物館に出かけました。ホテルのご好意でバスで大宰府まで送って頂き、時間が節約できたお陰で「うるま ちゅら島 琉球」とうたった開館記念特別展をゆっくりと堪能できました。昼食は天神様境内にある「お石茶屋」で素朴なお弁当をいただき、そこで散会となりました。

クラスメートの皆様、来年は長崎での集まりになります。半世紀が過ぎてまだ仲間と会えるということは嬉しいことではありませんか。是非会いたいです。

長崎在住の皆様、またまたお世話をかけますがよろしくお願いいたします。



昭和33年卒ミニ参楽会・山口県湯本温泉にて

千原美佐保（昭33）

6月10日(土)北九州市のステーションホテル小倉で平成18年度長楽同窓会定期総会が開催された。その機会を利用して、翌日同期生の集まりであるミニ参楽会を山口県の湯本温泉で開いた。

総会の参加者でも都合で帰宅した人や、直接現地にやって来た人など様ざまだったが、今年は総勢14人であまり集まりが良くなかった。若い頃に比べ、自分自身の健康状態やパートナーの病気など欠席の理由にはいささか老いを否応なく自覚さ

せられ心細い思いもしたが、中には未だ現役で活躍しているため出席は無理という頼もしい人もいた。

当日はステーションホテル小倉から宿泊予定の大谷山荘の送迎車で、山陰の海岸線を走った。途中、門司港レトロ地区に立ち寄り、観光客で賑やかな中、駅周辺を少し散策した後、再び車に乗り昼食予定の西長門リゾートホテルへ向かった。目的地までかなり距離があったが、天候は良く青い

海で交通信号や車の数も少なく、快適なドライブであった。旅館には早めに到着し、温泉好きの人は早速ひと風呂浴び、宴会までの気持ち良くお喋りで旧交を温めた。

宴会の席上では、いつものように各人の近況報告が行われたが、皆さんが結構積極的に毎日を過ごしている様子を伺い、さすがと感心するとともに嬉しく思った。私事ではあるが、この会の後不幸事に遭いささか落込む事もあるが、この時の友人達の元気な姿勢を思い出し力付けられるのである。ともかく楽しい一夜を過ごした翌朝は、同



じ車で高速道路を走り再び小倉駅まで戻った。

こうして全て順調に行くところだったのだが、関門橋そばのドライブインに立ち寄った際、今回お世話をしてくれた佐々木さんが、肩に怪我をされ皆とても心配した。幸い、その後まもなく治癒したとの事で、一同安心した次第である。好事魔多しとはよく言ったもので油断大敵だ。

来年は、京都在住の高田さんが中心になってお世話くださるとの事とても楽しみにしている。最後に参楽会のますますの発展を祈り今回の報告とします。



三葉会平戸に集う

上野美智子（昭34）

昨年の三葉会で予定していた金沢は変更され、今年は5月13・14日平戸で開催されました。平戸は日本の西の果て、歴史とロマンに包まれた島です。遣唐使船の寄港地であり、松浦水軍の拠点でもありましたが、中国、朝鮮との貿易で栄え、さらに16～17世紀にはポルトガル、スペイン、オランダ、イギリスの商船が出入りし、東西文化融合の街として繁栄していました。

13日は午後1時佐世保駅に集合、専用バスで一路平戸島へ向かい、泣き相撲で有名な最教寺を参拝、ザビエル記念聖堂の荘厳な美しさの中に昔を偲び、平戸松浦史料博物館では館長の解説で忘れかけている歴史の勉強を思い出したりしました。

1年ぶりの懐かしい面々、海上ホテル観月館で宴会が始まったのは午後7時、豊かな海の幸の数々、

潤滑なお酒と留まるところを知らないおしゃべり、時間はアツという間に過ぎ、料理の中の塩がまでは仲居さんと一緒に塩を叩いて割りたいという人も現れて記念写真が一枚増えました。

会の後は例年通り一部屋に集まって二次会、病気の話、子や孫の話、また、田崎さんからは長崎弁、長崎民謡を挿入したさだまさしの今年のヒット曲「がんばらんば」の歌詞が配られ、披露され全員で読経並みに合唱したのも思い出です。1年分の話が弾みましたが寄る年波には勝てないのでしょうか昔に比べて時間が短くなりました。

翌14日は専用バスで捕鯨と隠れキリシタンの島、生月島を観光、生月大魚籃観音を拝観、風があつて頭部を気にしながらも海と空が溶け合う雄大な眺望の大南風灯台（夕日でなくてチョッと残念）

等々を巡り、平戸をあとにして佐世保へ。西海国立公園弓張岳展望台から美しき天然の歌のように
は行きませんでした、少し霽がかった九十九島
を眺めた後、弓張の丘ホテルで昼食、ホテル内
にあるガラスの丘美術館を観賞したりして過ごし

した。午後3時佐世保駅に到着、再会を約束して
解散、それぞれ家路に向かいました。

待望していた三葉会も終わり、又1年間の健康
を祈念し、来年の集まりを楽しみに頑張りましょ
う。来年は近畿！ またの再会を楽しみにして。

昭和36年卒同期会 —卒後45周年記念—

白松 一良（昭36）

昭和36年卒業の同期会は2006年5月13・14日、
好天に恵まれ、思い出深い雲仙の「雲仙観光ホテ
ル」で開催された。幹事は、武田成子さんが中心
となり長崎在住の人々に変にお世話になった。恩
師有吉敏彦先生をお招きして、総勢21名（男性10
名、女性11名）と卒業時の半数が集った。中には、
卒業以来実に45年ぶりの再会劇もあり、感動的で
あった。ある人は白髪で当時の面影を全く残して
いないので、一瞬名前が浮かんでこないし、また
ある人は、青春時代の面影を残しているものの、
今度はこちらが「名前」を思い出せないと言う、
初老（？）性健忘症（??）に苦笑していた。しか
し、「ホテルのロビー」は、一瞬のうちに皆を昭和
36年にトラバーユさせ、すべてのヴェールを取っ

て、ものの見事に談笑の渦に巻き込んでしまった。
昭和10年10月10日にオープンした歴史的建造物に
はそれだけの魔力が秘められていた。改めて、木々
に囲まれた玄関までのエントランスや、落ち着いた
クラシックな本館建物が雲仙国立公園のシンボ
ルのように思えた。温泉は肌にやさしい硫黄泉で、
心身共に大いに癒された。

宴会は、最初に吉川 修さんの挨拶やや緊張
気味で、かなり格調高い内容のあと、越中利治
さんの乾杯でスタートした。久しぶりに顔を合わ
した同期の近況報告や、恩師有吉先生（九大から
の着任は我が学生時代の頃）の当時の思い出や、
その後の地域に密着した薬剤師会への支援・協力
などのご活躍ぶりを興味深く拝聴した。



2006年5月13日 於 雲仙観光ホテル

黒田 山崎 林田 橘崎 有吉 園田 白松 越中 斉藤 永田 吉川 武田
高木 藤島 伊藤 松林 栗屋 有吉敏彦先生 味田 穴井 自見

二次会は場所を「特別室」に移して、話の中心は「健康談義」や「認知症対策」、「趣味百話」や果ては「孫自慢」まで、尽きることがなかった。中でも、斉藤征地さんの「大腸がん体験談」、松林重宗さんの「水彩画論」、吉川 修さんの「調剤薬局経営学」は夫々に耳目を奪った。最後に、今回はいつやるかの議論となった。集まりやすい所とか同期が多い所とかなかなか纏まらない時、突如、「唐津がいい」との声が大きくなった。唐津在住の植崎妙子さんの「お手伝いします」との優しい一声で決定した。福岡在住の同期も応援するよと心強い発言があり、一安心した次第。唐津は歴史もあり、お祭りで有名な美しい町であり、食べ物も美味しくゴルフ場にも恵まれている。3年後、古希を祝う会が楽しみである。

さて、翌日早朝、1人で湯煙吹き出る「雲仙地獄めぐり」をした。学生時代以来だったので、遊歩道や案内板が完備されていたのには驚いた。名物「温泉たまご」を期待していたのだが残念なことに営業前であった。こんなに広がったかなあと思いつつ松の緑と白い湯煙に目を奪われ、地獄の底から聞こえる太古の音を心から満喫した。ホテルに戻って、豪勢でハイカロリーの朝食バイキン

グ（この年になっても、つい取りすぎて、おまけにもったいない精神で完食してしまう情けなき!）終了後、全員が揃って、ホテル玄関前で記念撮影後、3組に分かれた。多くは雲仙国立公園散策組で、ミヤマキリシマの美しい姿に見とれ、平成新山とその土石流等、自然の猛威に驚き、「具雑煮（ぐぞうに）」に舌鼓を打った。

少数派（4人）は、雲仙ゴルフ場（1913年開場）で新緑とつつじに彩られたフェアウェイを白球を追って闊歩した。思えばこの芝生の上は、45年以上前にソフトボールで遊んだ懐かしい場所である。（何と無邪気であったこと!）

いよいよフィナーレを迎えつつある。折角訪れた長崎で、外すことの出来ない店と言えばもちろん「天天有」だ。当然のことながら、注文はちゃんぽんと皿うどん。45年の空白が、ゆっくりと、おいしく満たされていく一至福の時に涙が出る。アー長崎は最高! 長薬万歳! 36同期生よ、元気でまた再会しよう!!

最後に、毎回のことながらスナップ写真と記念VTR編集など、そのときの記録を全員に配ってくれる黒田 誠さんに深謝。

平成 18 年 同 期 会

中西 洋吾（昭37）

卒業後40年目に、長崎で開かれた同期会から、毎年、福岡、奈良、鹿児島と続いて、今年は関東ということで、栃木県・鬼怒川温泉に集まりました。台風18号の発生で影響が心配でしたが、絶好の秋日和に恵まれた、10月15日(日)に東武浅草駅に集合。遠くは沖縄から喜納さん、鹿児島から池田君など各地から19名が参集しました。

浅草から鬼怒川温泉までの、特急スペーシア号での2時間は、小宴会と化し、初参加の町田（中里）さんとは、40数年ぶりの再会で、皆から大歓迎を受けて大いに盛り上がり、あっという間にホテル到着となりました。

龍王峡の観光後に、ゆったり温泉に浸かり、宴会となりました。近況報告では、ジムに通い足腰

を鍛え、山登りや国内外の旅行を楽しんでいる人もいれば、親の介護で苦勞している人もあって、その中の面白い話いくつかを紹介します。

90歳を越えた親の介護をしている人も何人かあり、夫々大変のようですが、96歳と94歳の両親で、独立して住んでおられたが、今年片親が亡くなった折に、世間で騒がれている住宅リフォーム詐欺に遭って、数百万円の損害が判明した由。老人は詐欺と気が付いても自分が悪かったと諦め、息子や娘に相談しないことが多いと聞いています。

又、数年前から、毎月奥さんと交代で、静岡から佐賀まで出かけていて、夏場の畑仕事では熱中症に罹り、危うく命を落としそうになったりしたが、今年、弟が東京から佐賀へ転勤となり、帰っ

てきたので開放された人もいます。

娘が3人いて初孫が女の子だったが、最近男の子が誕生して大喜びの人がいる一方で、「息子2人が結婚していないので孫はいません。代わりに俺の子供が出来ました。」との発言には、一同仰天しましたがこれは冗談でした。

娘夫婦が勤務医で不規則な勤務の為、孫を預かり一緒に暮らしていて、孫に話しかける事で、夫婦の会話が成り立っている例はペットでも同じで「今日は6時に帰るからネ。」と話しかけることで相手に伝わるケースでしょう。

料理教室に通いだして、楽しみながら台所に立つ人もいれば、料理を勉強したいと言い出したら、ニコニコと応援してくれたのに、美味しい料理を作ろうと材料の仕入れの段階で、あまりにも経済観念が無いと、近頃は嫌がられている例もあります。

出席者の4割程は、パートも含めて仕事に就いており、薬剤師には定年が無いんだと痛感した次第です。

翌朝は、バスで霧降り高原のドライブ、紅葉にはまだ早く緑の濃い中を走り、霧降りの滝を観て、日光東照宮へと向かいました。偶然、この日は流鏑馬（やぶさめ）が午後に行われるとかで、会場が設営され、多くの観客で賑わっていました。翌日は武者行列があるそうでしたが、両方共、観る事は出来ず残念でした。

東照宮の案内は、赤いジャケットの制服で、みのもんたそっくりのプロでしたが、軽妙で洒落な語り口には、思わず引き込まれ、建物や彫刻の歴史やその重要性を旨く説明してくれました。三猿や眠り猫にまつわる話と共に、皇室との深い関わりが判りました。昔は、大名しか入れなかった場所でお祓いを受けて参拝し、鳴き龍の甲高い声を聞きながら世界遺産を後にしました。

今市から浅草への帰路に着き、来年の長崎での再会を約束して散会となりました。

何はともあれ、無事に終わりほっとすると同時に、小野君の八面六臂の活躍に感謝を込めて筆を置きます。



長 薬 38 同 窓 会

山本 信義（昭38）

天気予報で雨，風，冷え込み予想のなか，2006年11月11・12日に鳥取県大山において，隔年開催となった38同窓会が開催された。（参加者21名）

この会に常連参加であった古賀利枝さんが10月7日の白馬岳登山で遭難事故死され，同窓会開会の前に全員で黙禱をし，ご冥福を祈ることとなっ

たのが、返す返すも残念なことであった。古賀さんもきっと同窓会の中止でなく、にぎやかにみんなで集うことを願われたはずとお互いに慰めあったものでした。

今回は米子在住の松本さんを幹事長役として、協力メンバーがそれぞれ役割分担したおかげで会はずーに和やかに進行した。

一次会にはにぎやかな歓談後の各人の近況報告で一段と盛り上がり、二次会は全員一室に集合して23時頃まで飲みながら談笑、更には有志で三次会を午前零時頃までと、各人が年齢を忘れ、いつの間にか若い頃にタイムスリップしたようだった。

翌朝は混雑を予想し、ホテルを午前8時に出発(17名参加)したが、ホテル玄関から大山が望めるので紅葉観光が十分期待できそうだった。悪天候を警戒してか途中の道路も渋滞せず、みぞれが時に降る気配だったが、バスの車窓から見事な紅葉を愛でつつ、大山寺、杵水高原、鍵掛峠とめぐった。評判に違わず、鍵掛峠からの雪を被った大山の眺望や紅葉は素晴らしく、来てよかったと思わ

せるものがあった。しばらくすると「あられ」が降り始め、変わりやすい天候には驚かされた。

その後向かった足立美術館では昼食までの約2時間をかけて、日本一と称される庭園(紅葉つき)や横山大観の日本画などを、ビデオ解説を見たりしながらゆっくり観賞(及び鑑賞)できた。足立美術館を出てくるみんなの満足げな、穏やかな表情が印象的だった。

昼食時には貸し切りの部屋で、3台の食卓について食事となったが、別れる前とあってか食卓ごとの会話がはずみ、段々と声が大きくなり、話が交錯して聞き取れないほどの騒ぎであった。(障子を隔てたお店の人が心配されたかも)

みんなのこうした元気一杯の姿に接して、懐かしがりつつも、お互いに元気づけられ、また参加できなかった人たちに思いを馳せながら、元気できてこそこうした同窓会にも参加できることを確認しあったものだった。

午後2時前に、2年後の福岡での再会を約して米子駅で解散となった。



古賀利枝さんと旅の思い出

城 タミ子(昭38)

長崎での学生生活以来、40数年私が頼りにしていた古賀さんを突然北アルプスの山で失い正直途方に暮れております。

古賀さんは若い時から、車の運転、水泳、テニス、山、旅行と活動的で、福岡では仕事の傍らローケツ染、染色、機織りを楽しみ、大変多趣味な方

でした。唐津浜崎の大きな御実家のすぐ裏手には美しい砂浜が広がっていて夏が来る度、「ウチの海が1番きれいよ」と何度も聞かされたものです。しかし、ここ20年位は、もっぱら山を楽しみ海外へも度々出かけ、現地から山の絵ハガキが届く度に羨しく思いました。私も10年ほど前から山歩き

を始めたので、福岡へ帰ると山の話聞き、油山へ美しい紅葉を観に連れて行ってもらったこともあります。

遥か昔の学生時代、工場見学の後、古賀さん、柴田さん、篠原さん、私と4人で四国を1周、ユースホテルや大学の寮に泊り、列車の中、バスの待時間とトランプに興じながら、行く先々の美しい景色に感動したものです。

第一薬科大学の助手時代、2人で出雲、松江、鳥取砂丘と山陰の旅は若い頃の思い出です。

最近では山行きで、2000年10月逗子でのクラス会の翌日、大倉尾根を登り、塔ノ岳、丹沢山、蛭が岳、と古賀さんの後を追うように、丹沢縦走ができました。2年前の11月、京都のクラス会の後は、4人で伊吹山へ、頂上の風の冷たさが印象に残っています。2005年4月末、私の希望で九重登山が実現しました。古賀さんの立派な新車に同乗して早朝福岡を出発、牧ノ戸より久住登頂後スガモリ越で昼食を取って三俣山登頂、法華院温泉山荘に1泊、翌日大船山、北大船山登頂、坊ガツル、雨ヶ池越より長者原へと楽しい山歩きでした。ツツジもシャクナゲも花には早かったけどアセビの白い花が一面に咲いて疲れを癒してくれました。

今年も米子のクラス会の折に、大山登山を古賀さんと数人で予定し、楽しみにしていた矢先の計

報で本当に残念でなりません。

数日前に電話で白馬の稜線より日本海の高尾根まで3000メートルを一気に歩いて下る梅海新道をそれは楽しみにしていると嬉しそうに話していました。

古賀さんとはよくおしゃべりしました。頭が良く何事にも一生懸命で、たまにそっけない言い方をすることもあったけど、心根の優しい、面倒見の良い友人でした。長いこといろいろ力になって下さってありがとう。心より御冥福をお祈りします。



古賀利枝さん（一番左）

同窓会って楽しいな。～新緑の栃木路へようこそ～

小野 博正（昭41）

昨年のお京大に引き続き、今年は、41年卒同窓会を5月21日～23日の2泊3日の行程で、新緑薫る日光、鬼怒川で開催しました。同期では北限の地にもかかわらず、ようこそ栃木へ。遠くは沖縄、五島、長崎から総勢18名の参加をいただき大いに盛り上がり、感動の3日間でした。名だたる鬼怒川温泉の懐石料理と温泉三昧、その名の通り霧に包まれていた霧降高原、世界遺産指定の日光山内東照宮、輪王寺を見学後、中禅寺湖畔の欧風ホテルに宿泊し、朝夕の露天風呂と新緑のぶなと八汐つつじに包まれた湖畔の散策を満喫し、広大な湿原の戦場ヶ原、日本3大瀑布の1つ華厳滝に

身も心も洗われた一時でした。

41年卒は平山世話人の熱意に支えられ、明るく、ゆかしく、朗らかに、多感な青春時代の4年間で共に過ごした仲間が、残りの人生を楽しもうと、開催間隔を短縮し、前回から毎年開催することにし、各地で活躍するメンバーが、平山世話人と相談し、無比なる企画を提案し、「いついつ、どこに集まれ」の一声で、都合のつく限り、また約束、都合、相方（夫や妻）を放り投げ、地の果てまでも参集するのが特長です。

「41年卒は団結と仲が良かとはトップやけど、同級結婚と政治力はいっちゃん無かけんね。」と平山

世話人はのたまうなれど、いやいや今年は、イヤヨ君、失礼、伊豫屋偉夫君が13代目長薬同窓会会長に選出されましたぞ。

来年6月、大阪総会には伊豫屋会長大応援団を送り込まんばいかんたい。よっしゃ決まった。来年は応援の後、奈良の法隆寺あるいは薬師寺高僧のご講話と高野山の宿坊泊にすっぞ、大阪在住の

安田君に頼めばよかつさ、話は一発即決断行です。(安田君大変だろうがお願いします。)

同窓会って楽しいな。会った瞬間41年もタイムスリップするんだもの…。

同泊すれば話は尽きず、笑いすぎて腹はよじれ、朝まで寝かしてくれないんだもの…。毎年会っているのにね…。



小篠 河本 小野 松本 高江洲 伊豫屋 池淵 藤沢
久貝 井田 中村 井関 平山 渡邊 原田 太田 大森 黒田

35年間の病院勤務を終えて

芦田マサ子(昭45)

昨年、同期生の方たちよりも一足先に、35年間勤めた病院を退職いたしました。思い起こせば、短いようで長い35年間でした。御調(みつぎ)国保病院から、長崎大学の河野信助先生に1人薬剤師を紹介して欲しいとの依頼があり、「地理的に、君が1番近いようなのでどうか」というお話を聞いたのが、御調との縁の始まりでした。

今でこそ地域医療の分野では、知らない人がいないくらいに有名になりましたが、その頃はまだまだ、御調はどこにあるのか、それよりもなんと読むのかさえもわからないような町でした。先生と一緒に地図で探したのを思い出します。尾道市の南の島に、“御調郡向島町”の地名を見つけ、ここだと信じ、下見に行ったところが、尾道市を挟んで北へ20km、同じ御調郡でも真反対の方向に進

んでいくではありませんか。どんどん山は高くなり、民家は無くなり、だんだん心細くなってきた頃でした。大きな峠を上りきり、はるか向こうの谷底に見える家並みが、私の勤める病院のある御調町だと聞き、びっくりし、なんと山奥の町なのだろうと思ったものでした。

「まあ、3～4年も勤めたら病院薬剤師の仕事がどんなものかもわかるだろうし、それから後は、お嫁にでも行こうかな」と軽い気持ちで就職したのですが、最初の計画通りには行きませんでした。先輩薬剤師が1年も経たないうちに退職され、1人になったときには本当に困ってしまいました。しかし、病院長、副院長が同じ長崎大学出身ということで、陰になり日向になり支えて下さいました。職員数50名足らずの病院でしたので、皆様か

らいろいろ教えて頂き、一つずつ仕事を覚えていく毎日でした。学部は違っていても、同じ大学の出身であるということが、こんなにもありがたいものだとは思いませんでした。先輩の諸先生方がいらっしゃればこそと深く感謝しております。

3年後には、同窓の記憶力抜群、実行力も兼ね備えた優秀な後輩が来てくれました。しかし、その後は山奥という地理的な要因から、なかなか薬剤師は来てくれないし、病院はどんどん大きくなっていくので、私も辞めるに辞められずといった状態に置かれてしまったのです。

そのような中、薬剤師も山口昇病院長の掲げる“地域包括医療チーム”の一員として、その役割を果たすようにとの職務命令が下り、またゼロからの出発でした。薬剤師不足の中、寸暇を惜しんで働きました。試行錯誤を繰り返し、挫折し、行き詰まり、何度辞めようと思ったことか、よくも35年間続いたものだと思っています。

なんとか地域医療に果たすべき、薬剤師業務の基礎ができたかなと思えたことと、御調郡が尾道市に合併されるのを機に、昨年3月、35年間の病

院勤務に終止符を打ちました。

それから1年半、十分に使えるようになった時間をどう過ごすかと、今までできなかったことに挑戦しています。絵画教室では原型がなくなるほど先生に直され、カラオケサークルでは少々はずれた音ですが、気持ちよく歌っています。大きな声を張り上げてストレスを発散する、これがまた実に楽しい。仕事をしている間は、御近所様との付き合いも二の次でしたが、今では井戸端会議にも加わり、おばちゃん生活を楽しんでいます。先輩姑さんたちが、老後の暮らし方、お嫁さんとの付き合い方とか、いろいろ御伝授してくださいます。こんなにゆっくりした時間を過ごせることに、幸せを感じている今日この頃です。

2006年10月28日には昭和45年卒の同窓会が計画されています。今回は泊まりがけの会とのこと、退職後をどのように計画をされているのか、ゆっくり同級生の皆さんのお話が聞けることを楽しみにしています。そのときのお話は次回報告することにして、今回は私1人の近況報告と致します。

謳う検査技師との出会い(近況報告に替えて)

松本 逸郎(昭47)

私は昭和47年に卒業と同時に長崎大学医学部生理学教室に就職したまま、ずっと在席しており現在34年目に入っています。卒後数年して当時の教室の教授の薦めで、市内にある検査技師養成の専門学校に非常勤で生理学の講義を担当するようになりました。当時、私は20代半ばで体力と気力はありましたので、授業前日の朝方まで講義の予習をしてそのまま授業しても特に疲れは感じませんでしたが、生意気盛りで前日に知ったばかりの知識を如何にも前から知っていたかの如くに講義したり、おしゃべりする学生を怒鳴りつけたりで振り返るとんでもない授業だったようで、赤面するばかりです。ある先輩に言わせると「三年同じ授業を続ければ少しは聴けるようになる」とのことでしたからホントにひどいものだったとひたすら恐縮するほかありません。その後長大薬学部も

含めて、食物・栄養系や医療系で授業する機会を得ましたが、このとき培った知識と技術が下敷きになっています。つまり講師料をもらいながら勉強させてもらった訳です。その後、この学校で臨床生理学を担当するようになりました。臨床生理学には心電図、心音・脈波、筋電図、脳波、呼吸検査、超音波、画像検査(MRI、熱画像)、平衡機能など多岐にわたる内容が含まれ、生理学よりも遙かに難敵で、覚えなければならない知識の量も数倍はあったでしょうか。授業の2日ほど前から予習を開始して、何時間もかけてノートを作りました。1コマをノートと教科書をにらみつつ乗り切るのですが、本業の教授のお手伝いと自らの実験に加えて、多いときには1年生から3年生まで週3コマもあるので毎週が自転車操業で、今振り返っても冷や汗が出ます。当時の学生諸氏には出

来の悪い講義を聴かせ本当に申し訳ないと思っています。それでも、3年くらい経つと本当に何とかなるもので、ノートや教科書などなしで授業もできるようになりました。国試対策との関連性も加味して少しはましな授業になっていったという気がしています。そのうちにこだわりがでてマニュアルな授業（ある学生の卒業時の色紙の感想）になっていたかも知れません。私はもともと植物機能が専門でしたから、心電図や呼吸、酸・塩基平衡などはすぐに馴れましたが、動物機能の筋電図や脳波は、いわゆる土地勘が働かず今でも苦手意識があります。しかし本業の医学部の授業が臓器別となり、呼吸器疾患（うち酸・塩基平衡異常）なども担当するようになってからはこのときの経験が役に立っています。私の講義の能力は、私の拙い講義を聴いてくれた学生さんから育てられたようなものですから本当は私の方が授業料を支払わなくてははいけなかったのではなかろうかと思っている次第です。

さて話は変わりまして、そのK専門学校でM氏と出会ったことです。私は生理学の非常勤講師でM氏は1年生として入学してきたのでした。その後M氏が私の師（先生）となったのです。その師匠は名付けて「謳う検査技師」と呼ばれています。かれこれ25年来の付き合いと言うことになります。私は長い間（在職33年のうち15年）ほど長大医系教職員組合の役員をしておりましたから、この師匠が組合のレクリエーションではギターを抱え、駆けつけてくれて美声で花を添えてくれました。執行委員になり組合の運営にも尽力してくれたこともあり、彼の支えに深く感謝しています。そのうち私も師匠に引きずられ、ついには「謳う生理学者」になってしまいました。先生は勿論かの「謳う検査技師」です。師匠のギターに促され、楽譜を前に「3段目の2小節目から！ハイ！！」で声を合わせるのですが、これが実は大変なのです。出だしに躓き、途中で歌詞を忘れてこけ、音程が外れて階段から落っこち、リズムは踏み外すはで、臨床生理学の授業よりも遙かに至難の業なのです。何度も何度もやり直しの連続です。しかし熱意（もちろん師匠の）は岩をも砕くのごとく、音痴も歌い手となる（豚もおだてりや木に登るの方が正確か？）で、どうやら人前で声を出せるまでになっ

たのでした。謳うこともまた楽しからず哉で今ではM師匠に感謝の毎日です。

そもそも何故謳う生理学者となったと申しますとちと長くなりますが、もう少しおつきあいを。長崎では三度被爆者を創らないとの願いを込めて、多くのプロとアマチュアの音楽ボランティアに支えられた平和音楽祭を積み重ねてきました。（私はつい最近知りました）職場の仲間（当時深堀中学校の育友会の会長さん）から10月開催のこのコンサートのキップを買わされて見に、いや聴きにいったのです。その時の企画は被爆者である故渡辺千恵子さんが、平和の語り部として反戦・平和を訴える語り部となるまでの「平和の旅へ」の歌と語りでつづった合唱組曲（「平和の旅へ」はCDになっております。興味を持たれた方はご一報ください）でした。語りは劇団民芸の日色ともえさんでしたが、歌と合唱も本当にすばらしく涙、涙の感動でした。これまで私がかかわってきた平和運動のどれよりも力強く確信に満ちたものでした。出演した人は中学生（深堀）も含め60～70名くらいでしたか。ほとんどが長崎在住で、この詞と曲を作ったのも長崎の人々でした。そのなかに彼の謳う検査技師のM氏が入っていたのでした。そして翌年の8月の原水禁大会に向けた「平和の旅へ」の練習に参加を呼びかけた長崎新聞を読み、恐る恐る出かけていったのです。受付の人（60過ぎの男性でしたが、あとでその方は団長で三菱造船を定年退職したばかりと判明）に「合唱は小学以来ですが……」、「いえいえ！皆んなそんなモンですよ！」、「ひと前でうた唱ったのは中学以来一度もないんですが……」、「私もそうでしたよ！」、「私はリズム感が少し足りないんですが……」、「みんなで渡れば怖くないですよ！」、「実は私は音痴かもしれないんですが……。もごもご……。うだうだ……。」、「まあそぎゃんこたあいちいち気にせんでよかですけん！！」とにかくいっぺん唱ってみてですか！」てな訳でついにルビコン川を渡ったのです。その後組合運動の一環になればということで職場にコーラスのサークルも創りました。その後平和の旅合唱団の男声パートの基幹になっている長崎三菱造船の労働者で造る合唱団「ながせん」からお声が懸かり、ついには男声合唱団員になってしまいました。もちろん師匠である例のM氏か

らのお誘いもあったのですから断れるはずがありません。毎年秋には九州の代表となって全国うたごえ祭典（例年5～8位入賞）で、各地に旅をしています。広島国鉄合唱団ナッパーズ（菜っぱ服で唱うので、因みにながせんのコスチュームはブルーの作業服です）や新日鉄や函館どっくの労働者仲間と合同演奏会を各地で開催したり、交流会と称して飲み会（合唱団ながせんは酒呑み合唱団と言われています）をしたり、温泉やドライブを楽しんでおります。

もちろん「平和の旅へ」は原水禁大会以外にも、組合や研究会（私共の医系教職員組合が加盟する全大教九州のこの夏の研究交流集会でも演奏しました）のイベントだけでなく修学旅行の中学生や小学生の前でも既に30回以上唱っています（合唱団としてはこれまでに160回以上、11万人以上の人々に平和の大切さを訴えているといえます）。中学生を目の前に「平和の旅へ」を演奏すると感動的な場面にしばしば出くわします。やんちゃとか生憎気盛りの中学生は先生の言うことを聞かず、べちゃくちゃ、ワイワイ、ガヤガヤでちっとも落ち着きません。「この先生は何ぼしょつか！」と思いながら見回すと気の毒（？）そうにこちらを気にしつつ騒いでいる生徒のそばに立ってあれこれ言っている様子ですが、ちっともその効果がありません。うろうろ徘徊している生徒もいます。奇声を発しているものもいる。どうなることかとはらはらドキドキしますが、指揮者と合唱団の多くは全く動じません。シンとして静かなること林の如し、動かざること山の如くしです。そして演奏は騒然とした雰囲気の中で始まりますが、変曲点は第2曲目のM氏の出番で訪れます。母親が新調した手縫いのブラウスを「こんなもんイラ

ン」と投げ捨てる（千恵子さんは原爆のため立つことも座ることもできず寝たきりなのです！）とここで一気にクライマックスに！そして「親も子も背中で泣いた！昨日も今日も」と続いたところで会場は水を打ったみたいに「シン」と静まり、一気に気持ちが高まるのです。子供達は目の前数メートルの所にいますので、100名前後座っている後ろの方まで生徒の表情はよく見えます。じっと俯いているもの、手を握りしめ一身に我々を見つめているもの、中には既にハンカチを目に当てているものも何人もいます。先ほどまで騒ぎ回っていた子は何処に！いました。なんと目に涙を一杯にしてこちらを一身に見つめているではありませんか！合唱団の面々は如何にと、そっと横目を使って観察すると、それを見たのか相撲取り然としたむくつけきおっさんも、ひげを生やした一見ダンディなおじちゃんも唱いながら鼻水をすすっている様子！これには驚いた！いや恐れ入りました。合唱団員に尋ねますとこんな場面はざらにあると言います。そして唱い終わってからの生徒からの万雷の拍手とお礼の言葉（時には返歌ではなく合唱で応えてくれることも）を聞くときの晴れ晴れとした充実感というか、達成感は何物にも代え難いのです。もちろんその時には生徒の誰一人として、私語もしないし、徘徊もありません。会場は合唱団も、先生も、生徒もみんな一つになっています。そのあとは麻薬と同じです。精神的を乗り越えて身体的依存症にまっしぐらでした。そんなわけで謳う検査技師（師匠は唱うだけでなく、人生を謳歌しているように見えました）との出会いにはたくさんのプレゼントが詰まっていたのでした。おかげで私も人と人との間で生きることの楽しさと喜びを感じている今日この頃です。

ミニミニクラス会＋1

相川 康博（昭48）

平成15年に長崎でクラス会をやった折、関東のお2人と、僕が上京するときは連絡しあって又会おうと約束をし、再会を期して唐津で分かれのです。上京する機会は多いのですが、毎年2月の第

1土曜日に行われる病院薬剤師会の代議員会の後に集まることにしました。

集合場所は JR 渋谷駅の忠犬ハチ公の前ということになっていますが、工事中でハチ公がいない

時もあって混乱した年もありました。平成18年の2月は私の遅刻もありましたが、全員無事集合しました。旧姓で鶴原、許斐、田中、山本の淑女？それに何でか知らず経済学部の子の山崎氏の6人です。

今回の場所は山本さんが設定してくれていて、六本木ヒルズ行きバスのシルバーシートに堂々と座って終点で下車。ビルの中にバスターミナルがあって、初めての六本木ヒルズは想像していたよりはるかに大きく、ビルというより1つの町でし

た。住人のホリエモンはその日は巣鴨のほうに仮住まいされており、会うことはできませんでした。てっきり六本木ヒルズの中の店で食事かと思いきや、ビルを通り抜けしばらく歩いたところの、麻布のとある素敵な中華料理店でした。

東京の中華を賞味しながら、30数年前の気分に戻ってワイワイガヤガヤ、楽しいひと時を過ごしました。お互い元気で今冬も会えることを楽しみにしています。



ドイツワールドカップ観戦糞？闘記

上川 恒夫（昭48）

妻の友人より、「ワールドカップを見に行きませんか」との一報が入ったのは、2月中旬でした。前回のワールドカップは申し込みをしたものの、見事にはずれ、今回は申し込みさえしていなかったもので、まさに、夢のように舞い込んできた吉報でした。しかしながら、すぐに、休みがとれるだろうか？との日本人的な発想が湧いてきた。昨年度も、結婚30周年を記念して「カナダ旅行」を計画していたのですが、急に薬剤師1人の欠員が生じ、私達夫婦が抜けることは有りえず、実現できなかった。行ける時に行動を起こさないといつまでもどこにも行けない。しかも、「日本対ブラジル」の入場券だったのです。これは逃す手はない。これから先、日本がワールドカップに出場できる可能性が低くなることは目に見えている中、あの「ブ

ラジル」が見られる。ロナウジーニョ、ロベルト・カルロス、カカ、アドリアーノそしてロナウド。自分の目で見てみたい。中学生以来のサッカーへの愛着は少年の心のように抑えることができない位膨らんでいました。そこで、スタッフに相談。すぐに、「ゆっくり奥さんと楽しんで来てください」との快い返事を戴き、ドイツ旅行への準備が始まった。

チケットを入手できたのが申し込んで2か月後、決戦の日まで1か月ない位で、少々、イライラの毎日でした。前々回のフランス大会でも、不手際でチケットの入手が不可能になり、大きな問題になっただけに心配でした。そういう心配も「プラチナカード」ゲット後はうきうきの毎日。自分なりに、サムライ戦士達がいかに戦うか、頭の中で

描いていました。6月19日夕方長崎出発、翌20日成田からいよいよドイツ・フランクフルトへの出発です。

飛行機の上での11時間余りはきつかった。短い足でも自由に伸ばしていたい。おまけに、前日よりの腹痛で、疲れは早ピークに。旅といえば「食」、あまり食べる気もしなかったのですが、妻を含めて美女？3人の接待を兼ねて夕食。フランクフルトと言えば、ソーセージですね。美味でした。翌日の決戦前は、ライン川下りで1日を過ごしました。よかったですね。社会人になって以来、毎日、せわしく働いてきた流れを阻止するかのよう、ゆっくりと流れに身をまかせて、遠くのぶどう畑や古城をただ「ボケー」と眺めるだけ。この「ボケー」がよかった。働いている間にはない、このゆったりとした時間の流れ。これはリタイアするまでは得ることができないのかな？

いよいよ決戦の日です。いざ決戦の地ドルトムント。着くなり、すぐに変装。変装と言えば、大学祭の時、長崎の街中を女装して御輿かついで闊歩したことが懐かしく思い出される。当時の写真を見ると、昔の男子学生はかなりバンカラだったようです。又、サッカーと言えば、薬学祭の一環としての各学部対抗サッカー大会で、私達学年は他学部が驚く程の強さで勝ったことが思い出されます。友と心を1つにして戦うことができ、私の薬学部在学中での最高の思い出となっています。さて、入場チェックが厳戒態勢で行われ、かなりの時間を費やしました。入場後、私の変装に目をしたFIFAの役員、又、高校サッカーの雄、国見

の小峰監督との記念撮影を無事終え、やっと席に。カクテル光線で照らし出された見事なグリーンのターフ。美しいの一語。いよいよホイッスル前、国際大会では恒例の国歌斉唱。今日は大声で一生懸命歌うぞ！いざ国歌斉唱が始まると、私の心に大きな感動が沸き起こりました。言葉が出ないのです。声が出ないのです。歌おうにも胸がいっぱいなのです。これが国歌なのか。今、東京では国歌斉唱、国旗掲揚をめぐる、馬鹿みたいな裁判沙汰を起こしている連中にあの気分を味わせてやりたい。歌えたのは最後近く、涙を隠すのに一生懸命でした。

いよいよホイッスル。100年に一度の大奇跡を願いつつ……。

前半、左サイドからのセンターリングに玉田が見事に合わせての先取点。ああー奇跡が始まったと思った途端、ブラジルが本気モードに突入、あっという間に夢は碎かれてしまった。ご承知の通り、サムライ戦士イズブルー。まさにそんな戦いでした。そして、中田の最後のパフォーマンス。そのパフォーマンスが200%以上理解できるくらい、走らない、走れない日本人選手のレベルの低さに改めて感じるものがあつた。少々、落胆。お前達、プロだろ！負けてもいいから、プロらしく戦え……。サッカー旅行は終わりました。

この旅行中、腹痛に悩まされた私が最も使ったドイツ語は「Wo its denn die Toilette?」蛇足ですが、ドイツの公衆トイレはロックされていて、有料です。

久しぶりの我が友との再会

原田 均（昭51）

2006年11月18日(土) PM 6:30、長崎ビューホテルで卒後30周年記念の同窓会を賑々しく開催した。実に10年ぶりの同窓会である。準備段階から、この人は必ず来る、この人は来るかな、この人は来ないだろうと学生時代の顔を思い浮かべながらの案内状の送付、忙しい中にも、皆に会える楽しみで自然に頬の筋肉が緩んでくる。当日のPM 5:

00頃から長崎在住の同窓生数人がホテルに集合し、受付、会場の下見とそわそわした様子で動きまわっている。微笑ましい姿でありとても50代半ばの人間と思えず、学生時代の姿を彷彿させている。6:00頃から三々五々卒業生が受付の場所へ、お互いほんの一瞬顔を見合わせ、同時に指を差し誰々さんと再会を喜ぶ声と声、思わず駆け寄り

手と手を握り合う場面も見受けられ、同窓会を開催してよかったと思う光景だ。参加者の数は39名にのぼり盛会のうちに、現長薬同窓会副会長伊藤(中村)珠江さんの挨拶の後、我々の学年で唯一の物語者力富明子様のご冥福をお祈りし、黙禱をささげ思いを新たにした。

参加者全員の集合写真、普通なら「はい皆さん笑顔で」と笑顔を催促される場面であるが、薬学4年間苦楽を共にした仲間同士、すぐに打ち解け合い話も弾んでいたの、なんら問題もなく笑顔で写真に納まった。写真撮影の後、すぐにテーブルを囲み学生時代気の合ったもの同士会話が弾む、あちらこちらで笑い声(嬌声)である。女性同士は昔も今も変わらない。現実の世界(仕事、子育て、受験、結婚)から一瞬にして学生時代のおきゃんな女の子に戻る。男性はというと、昔と同じで少ない人数では女性陣に立ち向かう事もできず、会場の片隅でまとまり、現実の世界の話題(仕事、上司、会社、女房、子供)で小さな声で話が弾む。しかし、やがて酒の力を借りて強引に女性陣の中に入り、楽しく学生時代の思い出話、現在の状況など語り合っていた。楽しい時間ほど早く過ぎるもので、あっという間に2時間が経ち、10年前の

第一回同窓会と変わらないままの人々(?)は5年後の同窓会を福岡でと約束して一次会を打ち上げ、同ホテル地下のカラオケスナックを借り上げての二次会へ、驚く事に全員参加です。幹事としてうれしい悲鳴であった。そこでもカラオケを利用する者はなく、ただ会話をするだけで、笑顔と笑い声が飛び交い、場所変えタイムを設けないと、同じ者同士だけの時間となり、数回「場所変え」と声を張り上げた幹事もいる。更に思い出として、地下の狭い部屋、参加者の熱気と体温で熱くなり、クーラーをと思いきや、残念、クーラーは故障中とか、それでも上着を一枚二枚と脱ぎ、文句も言わず学生時代そのままに楽しい会話を楽しんでいた。あっという間の2時間、悲しいが、寂しいが、別れの時間です。それぞれに再会を約束し、三々五々現実の世界へと戻った。と思ったが、その後、気の合った者同士旧交を温めあったそうである。人生の一時期ではあるが、苦楽を共にしてきた仲間がこれから先、健康に恵まれ、楽しく充実した日々を送ることを心より祈る次第です。

それでは、昭和51年卒の皆様、今回の同窓会参加の仲間も、残念ながら不参加であった皆様もごきげんよう。



昭和54年卒クラス会

梅野 一福(昭54)

昭和54年(1979年)卒同窓会を10月8日(日)大分県由布市湯布院で開催致しました。

卒後27年という中途半端な年に辺鄙な場所での開催でしたが、15名の同期生の参加、さらに元生

化学教授の石黒正恒先生にもご参加頂き、計16名で開催致しました。

今回の開催は、2年前の福岡での同期会において「次回は是非大分県で実施したい」との合意がありましたので、大分県在住同期生が半年前に別府に集まり、検討・企画した結果、連休の中日の日曜日に湯布院で1人2万円以内におさまるゆふいん湯めぐりホテル「山光園」での開催となりました。

3連休で家族の催しものがあり「残念ながら参加できない」との回答が次々と帰ってきましたが、連休なので初めて参加できるとの江田氏（大阪）、休暇を取っても同僚に迷惑をかけないですむとの鹿兒島の上門さんや田中さん、山口の高橋さん、宮崎の肥田木さん、長崎の濱田君、七條君からも「是非参加したい」という嬉しい回答も得ることができました。さらに、5階端の生化学教室で助教授から教授、九州大学を経て現在、別府大学で教鞭をとっておられる石黒先生にもご参加の回答を頂くことができ開催するに至りました。

当日は、大分空港からバスで来た方、日豊線か

ら久大線に乗り換えて来た方、九州横断道路湯布院ICから車で来た方、ゆふいんの森号を利用した方、2時間歩いて来た方？と様々な方法でのアクセスでしたが、19時からの宴会は、関あじ、関さば、城下かれい、豊後牛のステーキ等々海の幸、山の幸が盛り沢山の夕食で始まり、学年理事の濱田君の挨拶、石黒先生の来賓ご挨拶、参加者の近況報告、残念ながら参加できなかった人の近況報告で盛り上がりました。そして、由布岳を見ながらゆったりと温泉に入ったあと、持ち寄りの焼酎、泡盛、日本酒、ワインを飲みながら日が変わるまで談笑し楽しい時間を過ごしました。次回は、平成21年（2009年）に長崎市で開催することを合意し床に就きました。

翌朝はどんこ椎茸と温泉卵を使った朝食を頂いたあと、城島高原方面に車で上り湯布院を一望し、亀の井別荘まで戻り佃煮やソーセージ等の土産物を買ひ、金鱗湖を眺めながら10時間水ドリップしたアイスコーヒーを飲んだ後、湯布院の町との別れと旧友との別れを惜しみながらも再会を約束し解散しました。



上段 安松文雄、七條利幸、江田昌平、肥田木省三、梅野一福、濱田哲也

中段 上門（永野）弘子、工藤（三宮）佳子、高橋（大庭）久美、糸永恵美子、古川真一

下段 太田（河底）佳子、木本（後藤）房子、石黒正恒先生、是永（荒巻）加代子、田中（前田）眞由美

昭和56年卒クラス会 IN 雲仙

道津 靖子（昭56）

昭和56年卒クラスは、今年3月で卒業25周年を迎えました。「今度の同窓会は時間を気にせずゆっくり温泉にでもつかり、1泊するのもいいネ!」と、平成18年7月16日～17日、雲仙での1泊2日の温泉旅行となりました。宿泊ともなれば主婦には参加しづらいかも…という不安をよそに、大阪、岡山、北九州、鹿児島と遠くからも多数駆けつけてくれました。中には家族連れで参加してくれた人もいて、とてもアットホームな会となりました。

会場は雲仙観光ホテル、スイスの山小屋風洋館で、アルプスの少女ハイジを彷彿とさせるようなスタッフとロビーのアンティークな古時計が、優しく出迎えてくれました。先に着いていた仲間達も、ロビーのドアが開くのが待てない様子で笑顔をこちらに向けていました。ちょっとだけ老けた（笑）懐かしい面々、「わあ～〇ッ〇、元気になってあ～?!!」「久しぶりやね～〇〇ちゃん!!」お互いに恥ずかしい程可愛いニックネームで呼び合うのは、やっぱり同窓会ならではのですね。アツという間に大学生時代にタイムスリップです。賑やかに再会の挨拶を済ませた後、夜の宴会までには時間があったので、雲仙仁田峠や地獄観光へ行こうということになり車数台で出かけました。当時は（今でもそうでしょうか?）雲仙はドライブデートコース☆、「なんか懐かしいね～。」と、車を走らせました。しかし仁田峠は、冷たい霧で視界が利かず残念ながらロープウェイには乗らず下山。その後、お糸地獄や雀地獄でみんなで写真を撮りました。

さて、お待ちかねの宴会の始まりです。発起人である山口正広君の挨拶で始まりました。司会は

もちろん本職?である都知木 睦君です。いわゆるウケル司会ぶりに、始めは少しおとなしめだった人もいつの間にかあの頃の学生ののりになり、大変盛り上がったのは言うまでもありません。その上、鹿児島から参加の福重（上村）弘子さんが「みんなで一緒に飲もうよ!!」と、わざわざ抱え持ってきてくれた焼酎『森伊蔵』と『魔王』に舌鼓を打ちながらの贅沢な晩餐でした。ゲームをしたり、カラオケで自慢ののどを披露したり、昔のエピソードに笑いあったり…。最後はみんなで当時流行った懐かしのナンバーを肩を組んで歌いました。当然、そのままお開きのはずもなく二次会へ突入、今度は各地からのお土産をつまみに、中西君が持ってきていた卒業アルバムを捲ると更に懐かしさがこみ上げてきて、宴は夜が更けるまで続けました。

翌朝は所用で先に帰る人以外は、普賢岳の方へ向かいました。ご存じのように、雲仙最高峰のこの山は1990年に200年ぶりの噴火で島原に大火砕流の被害をもたらしました。火山のすべてを疑似体験出来る災害記念館「がまだすドーム」を見学し、あらためて被害の生々しい恐怖を実感し、亡くなられた方々への追悼の念を深く抱き、今回の同窓会を終えた次第です。

もちろん、「また5年後にみんなで会おうね!!」と、笑顔で約束して…☆

今回参加出来なかった人へ、みんなからメッセージです「5年後はきっと会いましょうね!!」

最後に、一緒に幹事をして下さった赤木君、上島君、立花（佐伯）さん、都知木君、八田君、藤本さん、山口君お疲れ様でした。





長薬同窓生の皆さん！今年も「シバカリ会」が元気に開催されました

中嶋 幹郎（昭57）

平成18年7月2日(日)に、約2年ぶりの「シバカリ会」が、今回もとても楽しい雰囲気にも包まれながら開催されました。前回は、平成16年の秋に長崎市郊外の「やすらぎ伊王島」にて1泊2日のお泊りコースでの開催でしたが、今回は、シバカリ会“発祥の地”長崎市内新地中華街の老舗「新和楼」での宴会コースで、恒例のお昼12時開始で夕方17時終了の5時間1本勝負（柴崎先生 VS 教え子）の「シバカリ会」開催となりました。

本「シバカリ会」は、長薬の名門？薬剤学研究室の前教授・柴崎壽一郎先生の教え子の集まりで、今でも1～2年に1回のペースをしっかりと守りながら、私の学生時代よりずっと前から続いている歴史ある研究室同門会です。現在、柴崎先生は福岡県甘木市に転居されておられますが、長崎市内のご自宅へ帰っていただく口実を作るため、久しぶりの長崎市内中心地での開催となりました。

今回は、シバカリ会の重鎮、長薬同窓会会長の伊豫屋先生（昭41）と長崎支部ぐびろ会会長の山中先生（昭43）のお二人が幹事を務められ、中村忠博さん（昭59）が連絡係を引き受けられての開催で、50名を超える教え子が集まりましたが、実は、直前になって柴崎先生より欠席したいとの電話連絡が入ったそうで、伊豫屋先生は甘木市の柴崎先生のお宅まで、先生には内緒でお迎えに行くという飛び道具？を使われ、先生と奥様を長崎までお連れすること（拉致？）に成功し、無事予定

通り開催の運びとなりました。また今回の「シバカリ会」でも、四国から小西良士先生（柴崎先生の下で助教授をお努めでいらっしゃった先生で、シバカリ会には欠かせない恩師の先生）ご夫妻にご出席して頂くことができ、とても華やかな会になりました。

私はこの「シバカリ会」が大好きで、柴崎先生の門下生となって以来、毎回欠かさずに出席させて頂いています。この「シバカリ会」では、学生時代に薬剤学研究室と一緒に過ごした先輩、同級生、後輩と当時の懐かしい思い出を語り合ったり、また今の仕事や家庭の近況等を話し合ったりすることができ、私はいつもその中から元気をもらっていると感じています。学生時代に、このような素敵なお部屋に入ることができ、今考えると、自分はとても幸せ者だと感謝しています。しかし一番嬉しいことは、先生の元気なお姿を拝見しながら、学生時代、薬剤学研究室にいた時と同じように、先生の楽しい大阪弁調子のマシンガントーク「柴崎節」を聞かせて頂けることです。この「長薬同窓会報」にも何度か書かせて頂いておりますが、この柴崎節の渦の中にわが身が溺れていく心地良さは、先生の教え子にしか理解できないかも知れませんが、私にとっては最高に幸せな時間の一つです。きっと「シバカリ会」会員の皆さんにはわかって頂けると思います。今回の「シバカリ会」でも先生の柴崎節は錆びておらず、まだまだお元

気で、会場は優しい笑いの渦に包まれていました。

柴崎先生は、「もうあかん」、「もうあかん」とおっしゃっておられましたが、お顔は笑顔でいらっしゃいました。私には先生のお言葉が「しんどいけど、次のシバカリ会にも来な～あかんかな」、「来な～あかんかな」と聞こえていました。先生、たいへん申し訳ありませんが、また次回も、もちろん先生に参加して頂く「シバカリ会」を開催させて頂くお許しをください。え！許して頂けるのですか！！ ありがとうございます。本当にありがとうございます。

それでは、また近いうちに「シバカリ会」会員の皆さんと柴崎先生が一同に集う会が開催できると思います。今回、欠席された皆さんとは、是非、今回の「シバカリ会」でお会いしたいですネ。今回も、実に楽しい栄養たっぷりの「シバカリ会」を、教え子一同にプレゼントして下さった柴崎先生に感謝するとともに、先生と奥様の益々のご健康を祈念して報告とさせていただきます。

今回の出席者は次の通りでした。なお、間違い等がありましたら何卒ご容赦ください。

恩師 柴崎壽一郎先生ご夫妻

小西良士先生ご夫妻

田中 博輝（昭39） 江藤 好信（昭40）

黒川 征史（昭40）	松村 祐子（昭40）
伊豫屋偉夫（昭41）	太田 和子（昭41）
平山 文俊（昭41）	前島 祥子（昭43）
山中 國暉（昭43）	品川龍太郎（昭44）
藤井 聡子（昭44）	松村 秀生（昭44）
松本 誠子（昭44）	護山 順子（昭44）
小池 正博（昭47）	若月 紀子（昭48）
田代佐夫子（院昭48）	相川 康博（昭48）
井手 清（昭48）	野本 鈴枝（昭48）
松井 由子（昭48）	今村 明久（昭49）
森 つよ子（昭49）	松本美智子（昭50）
橋間真理子（昭50）	橋間 康明（昭50）
小笠原正良（院昭51）	小笠原美津代（昭51）
竹村美津子（昭51）	高橋浩二郎（院昭52）
小嶺 裕子（昭52）	坂田富美子（昭52）
大淵 倫子（昭53）	佐々木 均（昭53）
野口のり子（昭53）	藤井 実（昭53）
野原 由美（昭54）	原村 直子（昭54）
長尾 光益（院昭55）	高崎 光恵（昭56）
中嶋 幹郎（昭57）	木山 容子（昭57）
首藤 英樹（昭58）	門崎 克典（院昭58）
木山 雄一（昭59）	中村 忠博（昭59）
児島 正樹（院昭62）	崎浜 朝子（昭62）
高山 陽子（昭62）	三松 聖子（昭62）



シバカリ会 平成18年7月2日 於 新和楼（長崎新地）

複素環化学討論会36年ぶりに長崎で開催

高良 真也（昭57）

世界をリードする日本の複素環化学の研究者が一同に会する「複素環化学討論会」の第36回大会が平成18年11月22日から3日間にわたり、長崎大学で開催されました。1969年の第2回大会が小林五郎先生(薬化学)を実行委員長に長崎の地で開かれてから、実に36年ぶりの長崎開催となりました。

実行委員長は、小林先生当時の薬化出身で第1回大会からこの討論会に参加されてきた、富永義則環境科学部教授（昭44）です。口頭発表57題、ポスター発表83題、計140の研究発表がおこなわれ、約350名の参加がありましたが、少し残念だったのは、長崎大学薬学部出身の方の参加が少なかった事です。

今回は、「すべてを文教キャンパス内で行おう」との委員長の提案で、口頭発表を中部講堂、ポス

ター発表は教育学部体育館、懇親会は生協食堂といった具合で、大会の運営も環境科学部、工学部、水産学部、薬学部の先生方、学生さんの協力を頂きました。新しい企画として、学生を対象としたポスター賞の企画、有機化学に関連する長崎ゆかりの古写真や資料の展示などの試みもあり、これまでとは少し違った新鮮な大会になったようです。2日目は雨模様で傘袋の調達等での苦労もありましたが、当日の懇親会には学長もご出席下さり、大変盛会でした。

事務局としてお手伝いさせて頂いた私も終わってほっとしています。後は、長崎国際観光コンベンション協会の助成を受けるための、報告書作成が残っています。この会報が届く頃には、全て片付き解放されていることでしょう。



同窓会 in 長崎

長尾 公則（昭61）

10年振りの同窓会が10月28日(土)に長崎市平野町の宝来軒別館にて開催されました。人数は26人と小ぶりでしたが、中身の濃い企画となりました。幹事の古谷敏行君(写真最後列右から2番目)、本多 隆君(古谷君の向かって左)、前田明子さん(最後列の一番左)、ありがとうございました。

古谷君が長崎をぶらりと訪ねて同窓会の構想を得てから1年、長崎市在住の本多君と前田さんの力添えもあって、日程・場所を確定し、「ゆびとま」のメーリングリストも56名まで増え、卒後20年の同窓会実現となったものです。

会が始まるまでの時間は、それぞれ思い思いに長崎の街をさるき、何人かは大学を訪れ、昔を懐かしみました。私自身は、長崎を訪ねるのがおよそ15年振りで、江山楼で王さんのちゃんぽんを満喫した後、浜町アーケード、出島を観光し、大学で古谷君らと落ち合いました。薬学校舎は生憎停電で、知った方にはお会いできませんでしたが、建物内を少し見学させていただきました。当たり前ですが、昔と比べて随分機器類が充実しています。階段教室が改修され、床が平面の教室になっていたのはちょっと寂しかったです。そのほか、食堂や新しくなった生協の周りを散策し、歩道橋がなくなった大学前から路面電車で松山町まで移動しました。

同窓会会場では、まあ、20年ぶりで、皆の名前と顔が一致しないとまずいので、前日に卒業アルバムで予習してきたのですが、それでも間違った方がいて恥ずかしい思いをしました。しばらくして、幹事から各自の近況を報告してくださいということで、全員から話がありました。

以下、近況報告で聞いた話と直接聞いた話から抜粋してお伝えします（順不同）。

本多君は、長崎市在住の唯一の男子で、ずいぶん痩せてしまいましたが、県庁勤務の傍ら大学の夜間講座に通っており、若い精気をもらっているため元気でした。谷口智子さんは、長崎市在住で日薬連の幹事をしており、忙しい日々とのこと。

佐野木千恵美さんも長崎市在住で、薬剤師をしながら子育てに頑張っていました。長崎弁を久しぶりに聞けて懐かしかったです。前田さんは、変わらない凛とした通る声で、「仕事をしながら子供3人の面倒を見るのは大変なのよ。」と話してくれました。美術部長だった吉柳公雄君は、鳴門市に一戸建てを構え、今回欠席の上村幸美さんとお子さん2人の子育てを頑張ってます。企業の研究所で分析の仕事をしています。塚崎雅雄君は、卒後カナダ4年、ベルギー2年と研究生活を送り、今は東京の企業で医薬品製造のプロセス研究に没頭しています。最近、論文に目を通す時間がないことが悩みだと話してくれました(本当の話)。重久省子さんはお子さん3人の子育て、執行ちとせさんはドラッグストア勤務(佐賀)、原水明美さんは週5日の薬局でのパート、鶴屋智子さんは、今回欠席の城下君と熊本県立劇場近くで幸せに暮らしている様子が分かりました。川上貴子さんは、鹿児島で医院の院長夫人としてご主人をサポートしているとのこと。中山健吾君は、小高芳子さんとの間に2人のお嬢さんをもうけ、来年4月から家族で東京暮らしとのこと。関東在住の同窓生で会を企画したいと考えています。藤秀行君と永田美代子さんは、西宮在住でお嬢さんが1人います。藤君が製薬協の開発関係のタスクフォースリーダーで東京出張が多いため、一緒の時間が少ないとのことでした(奥さんは楽?)。藤君、東京に来たら連絡ください。市村清隆君は、福岡県庁で今度治験関係の仕事に携わることになるとのこと。次回同窓会の幹事指名を受け、また、13歳年下の奥さんと今度生まれるお子さんのためにも、若くならなくてはと決意を新たにしていました。山崎昇平君は、指宿の実家の山崎パンで取締役社長として多忙の日々を送っており、今回は無理して参加されたとのこと。薬剤師もやってるそうです。高橋麻里子さんは、宮崎県庁で研究業務に携わり、日夜勉強に励んでいるとのこと。真下多恵さんは、宮崎の一流企業に勤め、品質管理関係のお仕事、マ

ラソン大会マネージャー、宴会部長と活躍中。村本真由美さんは、今年、米国テキサスに研修目的で滞在し、北九州医療センターでがん専門薬剤師の資格取得に燃えていました。古海勝彦君は、薬剤師に加え医師免許を取り、今は博多の自宅から高速バスで熊本に通い、内科医・産業医として活躍中。学会では浅田さんを見かけるとのこと。坂川則子さんは、神戸から駆けつけ、活発に動き回って皆と話をしていました。お子さんやペットのカメラの話を聞くことができました。佛坂浩君は、嬉野で薬局経営、薬学6年制の卒業生を将来迎え入れるにあたり、日々勉強に勤しんでいるとのこと。渡邊浩昭君は、変わらない人格者で、熊本の企業での臨床開発業務で担当医師の心ががっちりつかんでいるとのことでした。古谷君は、学生時代からのトランペット演奏を続け、休日は楽隊で活躍しながら、大阪の企業で医薬品の合成プロセス研究に打ち込んでいるとのこと。不詳長尾は、東京の企業で開発業務をずっとやっており、2年前に4年間のドイツ駐在を終え、今はD社との統合業務に追われています。休日は沖釣りが息抜きです。

近況報告のあと、欠席になった方で、葉書で連絡がついた彌永直子さん、内田伊久夫君、山代修君のメッセージ紹介がありました。山代君はい

まだ太れないとのこと。

会に参加できなかった、新治 厚君、村山信浩君、近藤雅也君・佐藤恵美さん、帆足浩一郎君・荻原雅子さん、山本令子さんのメッセージは紙面の都合から割愛させていただきます。すみません。

二次会は、大学正門前のフラワーメイトで開催され、全員参加でした。皆、話しに夢中でカラオケは一切なく、まだ話足りない感じで散会となりました。

同窓会に参加して良かったです。それぞれの道を、皆さん苦労しながら進んでいることがよく分かりました。勉強を重ねて努力している方ばかりで励みになりました。日頃のストレス解消にも役立ったと思います。ただ、原点となる場所に、働き盛り、女盛り、男盛りの皆が集まり、時間の経過（要は年を取ったということですが）を身にしみて感じました。

最後に。クラス会だよりを私が寄稿するとはまったく思っておらず、どう書いてよいやら迷ったあげく、文才もないので自分が感じたことをそのまま書くことにしました。記憶が曖昧で、不正確な情報や不適切（過剰）な表現があったかもしれませんが、参加者の方ご容赦ください（名前は旧姓とさせていただきます）。



太田和子先生御退官記念祝賀会

梶島 力(平4)

太田和子先生(機能性分子化学研究室)の御退官記念祝賀会が平成18年3月18日、ホテルニュータンドにて開催されました。太田先生は、昭和41年に本学部を御卒業されてから、これを読まれている多くの方がご存知のように、約40年間の長きにわたり、本学部の教育研究に御尽力されました。本来ならば、多くの方々に御連絡差し上げねばならないところですが、直近の同門生にのみ連絡いたしましたことを、この場を借りてお詫びいたします。

さて、研究費の申請書作成疲れで文章が堅苦しくなりましたが、ここからは私の地の文章で祝賀会の報告をしようと思います。最初、太田先生から「わざわざ祝賀会とか開かんでもいいよ」と言われたのですが、こういう機会でもなければ卒業生が集まらないということで、祝賀会に便乗して同門会を開かせてもらいました。まず出席者ですが、九州はもとより、遠くは東京、大阪、徳島から卒業生が参加してくれました(さすがは太田先生と感心)。甲斐先生の挨拶で始まり乾杯となったのですが、乾杯の音頭は、祝賀会が始まる前に「僕には何もふらないで下さいよ」ということだったので山口 隆君(平12)にお願いしました(山口君ゴメン)。しばし歓談後、出席者から一言ずつ太田先生へ挨拶してもらったのですが、みんな出だ

しが「太田先生、長いことお疲れ様でした……」だったため、太田先生から「そんな『お疲れ様、お疲れ様』言わんでいい」と途中でツッコミをもらいながら、賑やかな祝賀会(同門会?)となりました。

同門生の皆さんはよくご存知だと思いますが、太田先生は、家庭菜園がご趣味で、よく研究室に採れたての野菜を持ってきてくださいました。特に卒論発表終了後に研究室でやる鍋は、採れたての野菜が盛り沢山で最高だったのですが、あの鍋がもう食べれないのかと思うと残念で仕方ありません。もう一つ思い出にあるのは、ある日の研究室で映画の話になったとき、学生がジョン・ウェインやジェームス・ディーンを知らないと言い、今の学生は知らない世代なんだと太田先生と話していたことです(というより自分は太田先生の世代に近いのかと思ったこと……)。

まとまりのない話になってしまいましたが、太田先生の御退官と第二の人生のご出発をお祝いする楽しい会になりました(文章が下手でうまくお伝えできないのが残念です)。以上、簡単ではありますが、太田和子先生御退官記念祝賀会の報告をさせていただきました。最後になりましたが、お忙しい所ご出席いただきました皆様に、この場を借りてお礼申し上げます。



平成15年卒業生初の同窓会開催！

坂田 真人（平15）

早いもので学部を卒業してから約3年半、社会人として働き始めてからはまだ1年半。まだまだ分からないことだらけで、毎日が勉強の日々を過ごしています。そんな中、同級生から「学年理事の仕事しろ！」との声が聞こえたような気がして、特に節目の年という訳ではありませんが、今年ついに同窓会を開くことにしました。取りあえずみんなが集まりやすい連休がいいだろうということで、10月8日(日)に決定しました。（この段階では長崎くんちのことをすっかり忘れていました）それからみんなの連絡先を集めることから始めました。実はここが一番苦労した所かもしれないです(笑)。そしてみんなに同窓会案内を送ってみたところ、意外と多くの出席の返事を頂き、これはしっかりやらないとなと改めて思いました。最終的に出席者は44人となり、幹事として大変嬉しかったです。欠席者の中には、お子さんが小さかったり、どうしても仕事の都合がつかなかったりというやむを得ない理由にも関わらず、「申し訳

ありません」という返事の方もいらっしゃいました。こちらこそわざわざすみませんという思いですが、次回開催の折にはぜひ参加をお待ちしております。

当日、会場の長崎グランドホテルに少し早めに向かったのですが、大波止周辺はおくちで大盛り上がり。出席者の方々は到着するのに大変だったかもしれないですね。すみません。受付嬢の小川奈津子さんと共にスタンバイしていると、徐々に懐かしい顔ぶれが登場しました。開始時刻の18時には殆どが到着しており、ほぼ定刻通りに開始出来たことを感謝します。原田周平君の司会により、私の乾杯の挨拶もそこそこに会が始まりました。最初、料理の置かれたテーブルを挟んで、男性と女性とが真っ二つに分かれていたためどうなる事かと心配しました(笑)が、そんな心配をよそにすぐみんなと昔話を花を咲かせていました。私は写真撮影などでバタバタしていて、ゆっくりみんなと話すという訳にはいかなかったのですが、



みんながそれぞれに楽しめていたら幸いです。最後に、渋滞に巻き込まれて終了10分前に到着した藤井 収くんの挨拶と記念撮影をしてお開きとなりました。帰りにみんなから「ありがとう」「お疲れ様」という温かい言葉を頂き、幹事をやって良かったなと改めて思いました。至らぬ点ばかりで迷惑をおかけし、こちらこそみんなに「ありがとう」と言いたいです。

今回は二次会の場所は決めず、各々好きなようにしてもらった形を採りました。そのまま「おくんち」を満喫した人、思案橋で街飲みした人、学生時代の思い出の住吉で飲み直した人など様々だったと思います。みんなが久しぶりの長崎で懐かし

い気分になりながら、新たな思い出を作ってくれたらと思いながら私は帰宅しました。

最後に、頼りない幹事を支えてくれた先ほどの3名、あと長崎県内はもちろん、九州各県、あるいは東京・大阪から駆けつけてくれた皆さんに心より御礼申し上げます。次回はいつになるかわかりませんが、今回以上に良い同窓会にしましょう。そのためには皆さんの協力が必要です。全員参加出来るように日程や場所なども考えたいと思います。皆さんとまた会える日を楽しみにしています。その日までお互いそれぞれのフィールドで頑張らしましょう！

第一回医療情報解析学研究室同門会報告

～中島 憲一郎先生を囲んで～

富松 規子（平17）

去る平成18年7月29日18時より、ホテルニュー長崎に於いて、第一回医療情報解析学研究室同門会を開催致しました。予てから同門会開催の要望が卒業生の間でありましたが、開講8年目にしてようやく実現させることができました。当研究室は、平成11年に開講されて以来、平成18年3月までに卒業生及び修了生57名を輩出し、現在在籍している学生を含めると同門生は80名にのぼります。長崎を離れてご活躍なさっている先輩方も、この会のために遠方より足を運んで下さいました。残念ながら当日参加できない方々もおられましたが、そのような方々からはメッセージを頂きました。当日は、薬品分析化学研究室教授である黒田直敬先生をゲストにお招きし、計52名が集いました。

黒田先生による乾杯の音頭で会が始まると、中島先生を囲んで懐かしい話に花を咲かせたり、久々に顔を合わせた同級生、先輩、後輩とお互いの近況を報告しあったり、あるいはバイキングの料理やデザートに飛びついたり、思い思いに楽しい時間を過ごされていたようで、皆さん一様に笑顔だったのが印象的でした。また、中島先生がビデオカメラ片手に、同門生一人ひとりにビールを注いでお話をなさっていたこともあり、皆さんほろ酔い状態でさらに会話も弾んでいたようです。

会も半ばになると、斎藤麻理子さん(平12)、池

田理恵さん(平13)、中村晃子さん(平15)の解説のもと、この研究室の8年間の歩みをスライドショーで辿りました。スクリーンに映る写真を見て、ああこんなこともあった、と皆さん懐かしんでいる様子でしたし、初めてこの研究室の歴史に触れた私たち現役生も、この研究室の同門生としてその歴史に加われることを嬉しく思いました。

楽しい時間は過ぎ去るのが早いもので、あっという間の2時間でした。最後に記念撮影を行いました。この会がいかに盛り上がったかは、皆さんの表情を見て頂ければわかると思います。第2回の同門会での再会を誓いつつ、城戸秀昭さん(平9)の万歳三唱にてこの会は締めくくられました。今回参加できなかった同門生の皆さん、次回の同門会でお会いできることを楽しみにしております。

最後になりましたが、この会の開催にあたり、池田理恵さん(平13)には事務局として、各同門生との連絡からスライド制作、名簿の作成・発送に至るまでご尽力頂きました。この場を借りて感謝申し上げます。また、多忙な中、駆けつけて下さった黒田先生に感謝申し上げます。

〈参加者〉

中島憲一郎先生(昭46)	中嶋弥穂子先生(院昭61)
黒田直敬先生(平4)	和田光弘先生(平4)
本多 隆(昭61)	富田 守(平2)

西村 美穂 (平2)	中村美恵子 (平8)	倉橋 絵美 (平16)	永野みのり (平16)
城戸 秀昭 (平9)	斎藤麻理子 (平12)	横田 千明 (平16)	米元 治朗 (院平16.9)
萩原 邦子 (平12)	濱田 光洋 (平12)	植木 理恵 (平17)	城戸 司 (平17)
山田 孝子 (院平12)	伊藤 恵子 (平13)	曾根本恵美 (平17)	富松 規子 (平17)
森美 和子 (平13)	池田 理恵 (平13)	山根 智子 (平17)	中村 心一 (院平17)
Sounvoravong Sourisak (院平13, 客員研究員)		西脇潤一郎 (平18)	杉尾由希子 (平18)
川口 仁美 (平14)	嶋田江理嘉 (平14)	園部千賀子 (平18)	東 さやか (修2)
平塚 理恵 (平14)	井上 智行 (平14)	酒井加奈子 (修2)	中島帆奈己 (修1)
高場久美子 (平14)	黒木 理恵 (平15)	中村真裕美 (修1)	吉良 萌 (学4)
田中 梨沙 (平15)	森 豊美 (平15)	空閑 千尋 (学4)	陣内 咲絵 (学4)
草留 千恵 (平15)	中村 晃子 (平15)	西岡 雄一 (学4)	藤本 芳 (学4)
鶴田絵里子 (平16)	一瀬 沙織 (平16)	山原 梢 (学4)	計52名



ぐびろが丘の清掃活動を通して

ト部 奏 (平17)

2006年8月6日。長大薬学部OBの先生方、現役の学生が主となり、総勢35名余りが参加し、今年もぐびろが丘の慰霊碑清掃が行われました。個人的には、大学2年生の頃から毎年参加させてもらっていて、今回が5回目、そして学生としては最後の参加となりました。

この慰霊碑の清掃は、毎年暑さや蚊と戦いながらの大変な作業です。しかし、今回は学生の参加が多かったせいか、作業のスピードが速く、例年よりも早く清掃作業が終わったように感じました。清掃作業が終わると、田崎先生（昭22）から、戦時中の学生生活や、ぐびろが丘の惨状を涙ながらに話していただきました。田崎先生には、戦争を経験していない私達のために、毎回このようにお話をしていただいています。この場を借りて、厚く御礼申し上げます。本当にありがとうございます。そして、お昼には近くの中華料理店で会食をし、今回の清掃活動も無事終了しました。

私達は戦争を経験していません。だから、戦争に対して、戦争を経験してきた方々と同じ感情を持つことは不可能だと思います。しかし、当時の話を聞いて、事実を受け止めることはできます。そして、それを伝えることもできるはずです。ぐびろが丘の清掃活動では、慰霊碑やその周辺をきれいにすることで、もちろん充実感を得ることができますが、それに加えて、もっと大切なものを得ることができると思います。現在の平和な暮らしがあるのは、私達よりも前に生きてきた人々のおかげであることを忘れてはいけないうし、感謝の気持ちを持ってこの清掃活動に参加できればと思います。だから、後輩の皆さんには、この清掃活動にただ漠然と参加するのではなく、最終的に何かを感じて欲しいです。そして、戦争という忘れてはならない歴史的事実を後世に伝えていくためにも、この清掃活動が継続し続けて欲しいと願っています。



クラブOB会だより

平成18年度野球部 OB 会と OB 戦観戦記

伊藤 潔 (昭59)

11月25日の土曜日、午後6時から毎年恒例の長
葉野球部 OB 会が開催された。場所は江山楼浦上
店の2階の畳部屋。いつものスタイルに戻ったの
ではありますが、イスも悪くなかったというご意
見もちらほら。最近ほ炬燵スタイルのお店も多
くなってきているし、来年はまた考えます。よく
わからない好景気が続いているせいか、OB 諸氏
も多忙。やや少なめの参加者は昭和卒 OB が11名
と平成卒 OB が20名の31名。九州外からの参加者
が昨年よりも1名増えて6名もあった。特筆すべ
きは、はるばる仙台から駆けつけてくれた中田一
成氏(平9)。奥様の雅美さん(平11)とかわいい
娘さん2人を連れての参加でした。東京からも川
端、鈴木(共に平14)、永川(平16)の3氏。加え
て、広島からは2連覇につながった昨年の優勝
チームキャプテンの菅原君(平18)がやや遅れた
ものの無事セーフ。現役の25名と合わせた総勢は、
2人の姫を入れた59名の会となった。今年も平成
組の若々しさが目立っていた。

昨年6年ぶりとなる通算5度目の九葉連優勝を
果たした野球部は、今年も圧勝で九葉連で優勝し、
史上初の2連覇の偉業を成し遂げた。これに対し
ては、平成18年度の長崎大学学長賞が齋藤 寛学
長から授与されたことも申し添えておきます。こ
の吉報を伝えた伊藤(昭59)の挨拶で始まった会
は、2連覇達成時のキャプテン藤村憲行君(学4)
の司会進行で進められた。西脇金一郎同窓会長(昭
33)のご挨拶。「そろそろ若い人にバトンタッチし
てはいかがか」とのお言葉も聞かれましたが、OB
からは、「まだ続けてください」との声が強く、い
つも通りの西脇節のあいさつを頂戴することがで
きた。乾杯の音頭は久しぶりに参加の工藤二郎先
輩(昭33)をお願いし、今年もプレーボールとなっ
た。宴会中は宴会に没頭したため、本稿の写真や

野球部同窓会 HP から想像していただくとして、
一つだけお知らせしておきましょう。受付はマ
ネージャー3人が担当してくれたのですが、実は
そのうちの1人は吉田泰史先輩(昭55)のお嬢様
(学2)。嬉しい共演でありました。今泉貴世志先
輩(昭31)からは、今年も準硬式ボールを頂戴し、
感謝の言葉ありません。本当にどうもありがと
うございます。

翌日開催のOB対現役の親睦試合。今年のOB
側先発メンバーの発表は少しだけ違っていた。
ピッチャー今泉(昭31)、吉田(昭37)、吉田(昭
55)、平川(昭63)、川端(平14)、キャッチャー鈴
木(平14)、伊藤(昭59)、ファースト中嶋(昭57)、
セカンド森本(平5)、小川(平16)、サード菅原
(平18)、永川(平16)、ショート佛坂(昭61)、中
田(平9)、レフト西脇(昭33)、秋吉(平3)、セ
ンター田原(昭51)、山本(平2)、ライト小田原
(昭60)、井石(平4)。2連覇の現役に立ち向かう
には9人では足りないと、20名を壇上に集め、最
強の現役打倒を目指し気合いを入れた。現役のメ
ンバー発表に続いては、院生を含む現役学生によ
る巻頭言と校歌斉唱。締めの方歳三唱は、中田一
成氏にお願いした。現役によるOB会での巻頭言、
校歌斉唱を始めたその人、若手にとっては伝説の
キャプテンである。最後に、参加してくれたOBの
お名前を加えさえていただく。八木洋一(平9)、
牛嶋信人(平15)、小野原侑子(平16)、平林圭輔
(平17)、水間 潤(平17)、井上真理子(平18)、
田口奈々絵(平18)、平山了一(平18)、藤井修平
(平18)、山澤龍治(平18)。会の模様は、野球部同
窓会ホームページでもご覧あれ。<http://www.ph.nagasaki-u.ac.jp/dousou/club/baseball/homebase.html>

OB 戦観戦記

平成18年11月26日(日曜日)。恒例の長葉野球部OB戦は、残念ながら雨のため中止となってしまった。朝から集まった今泉先輩を始めとするOBは、雨が小降りとなった時間に素振りやキャッチボールに興じたが、グラウンドの状態を見ながら泣く泣く中止を決めたのでした。雨での中止は、平成11年以来。来年に夢を膨らませながら、皿う

どんやチャーハンを囲み、互いの近況を確認しあった。野球とは言わずとも、会社のソフトボール大会では中心となり活躍しているOB諸氏、見た目はあまり変わっていないように思いますが、あちこちでちらほらと聞こえてきたのは、「俺、脱いだらすごいんだ」の声。「安心」というか、確実に年は重ねています。来年は青空の下、白球を追いかけましょう。



第22回薬学硬式庭球部 OB 会

真矢 啓史 (平18)

11月4日、5日の2日間、第22回薬学硬式庭球部OB会を開催いたしました。

4日は松山の市営コートでOB・OG対現役生による対抗戦を行いました。幸い天候にも恵まれ、絶好のテニス日和の中で試合を行うことができました。今年はコート进行全面貸し切り、多くの試合を行いました。結果はOB・OGサイドの22勝5敗と、例年通りOB・OGの圧勝に終わりました。やはりOB・OGと現役生との間には技術的、精神的な面で大きな差があるように思われました。

対抗戦後、懇親会を宝来軒別館にて行いました。参加者はOB・OG、現役生合わせて約80名にのぼり、盛大に行うことができました。懇親会では、石黒先生や松原先生(昭58)のお話、お昼の試合のこと、恒例の庭球部の歴史、就職についてのアドバイスを受けるなど、様々な話題で盛り上がり、OB・OGの方々と現役生との繋がりを深める良い機会になったのではないかと思います。

5日には本学情報処理センター横のテニスコートにてエキシビジョンマッチを行いました。前日は残念ながらご欠席された山本さん(院昭55)、西

田先生にもご参加いただき、一日目と同様に晴天のもと気持ちよくテニスをすることができました。

今年も多くOB・OGの皆様が集まっていただき、盛大なOB会となりました。今年は練習熱心な現役生が集まっているように思われますので、来年のOB戦が今から楽しみです。

最後になりますが、長崎大学薬学硬式庭球部は今年でOB・OG 279人、1年生も14人入部して薬学部の中でも大きな部の1つとなりました。今年は残念ながら出席できなかった方も、ご都合がつかましたら是非、来年はご参加ください。現役生一同、心よりお待ちいたしております。



平成18年度軟式庭球部 OB 会

大西 幸子（学部3年）

12月2・3日の2日間、平成18年度軟式庭球部OB会を開催いたしました。

2日土曜日は長崎大学前の手羽屋で午後7時より懇親会を行い、参加者はOBの方々、現役を合わせて35名となりました。軟式庭球部は近年比較的、部員数が少ないのですが、今回のOB会は出席率が高く、OBの方々もお忙しい中、足をお運びいただき、盛大に行うことができました。懇親会ではOBの方、先輩方から、就職、進学、研究室についての様々なアドバイスをいただくことができ、たいへん勉強になりました。また、普段の練習は1，2，3年生のみが参加なので、久しぶりに先輩方にお目にかかり、お話ができ、有意義で楽しい時間を過ごすことができました。

翌日のOB戦は約20名の参加となり、真冬の様

な寒さの中、OBの方々と熱戦が繰り広げられました。試合は学年、男女関係なく組み分けして、トーナメント戦を行い、大いに盛り上がりました。練習日やコートの関係上、十分に練習ができたとはいえない状態でしたが、当日はみんなで仲良く楽しんで試合ができたので、大満足のOB戦となりました。

今年も遠方より、この日のために足をお運びいただいたことを大変嬉しく思っております。また、参加できなかったOBの方々からもたくさんのメッセージをいただき感謝しております。来年も盛大なOB会となることを期待しています。皆様のご協力、ご支援のおかげで微力である私たちが無事にOB会を終えることができました。大変、ありがとうございました。



庶務報告

庶務幹事 岸川 直哉 (平10)

○定例理事会

平成18年4月8日(土)午後1時00分より同窓会館「柏葉会館」1階研修室で開催されました。会長挨拶の後、まず平成17年度事業報告および決算報告、庶務報告が討議されました。また、4月から薬学部にて6年制コースの新入生が入学したことにより長葉同窓会会則のうち、同窓会入会金に関する条項の再考が必要となっていました。そこで、これを機会に他の幾つかの会則条項についても文言の修正、また、本部役員構成の変更に伴う会則の変更を本部役員会から理事会に提案し、討議を行いました。さらに、平成17年度末は会長の任期満了(3期6年)と役員改選の年にあたることから、役員改選(案)についても一括して討議を行いました。これらに対していくつかの意見が出された後、長葉同窓会会則変更(案)および役員改選(案)は同窓会総会に諮ることとなりました。平成18年度事業計画案については、新会長および本部役員会で検討のうえ、同窓会総会に提案することとなりました。

また、北九州支部の末宗成二氏(昭28)、増田和久氏(昭50)より小倉ステーションホテルで開催される平成18年度長葉同窓会定期総会について説明がありました。さらに、平成19年度定期総会については近畿支部より開催の申し出がある旨の報告が会長よりありました。

○平成18年度長葉同窓会定期総会

平成18年6月10日(土)午後5時30分より、北九州市の小倉ステーションホテルにて開催されました。開会挨拶の後、まず物故者への黙禱を行い、続いて西脇金一郎会長よりスライドを使い、会長職3期6年の事業報告も含めた挨拶がありました。その後、高橋浩二郎氏(院昭52)を議長に選出して議事に入り、平成17年度の事業報告ならびに決算報告、それに対する監査報告がなされ承認を得ました。続いて長葉同窓会会則変更および役員改選に関して討議が行われ、原案どおり承認を得ました。ここで、同窓会新会長となりました伊豫屋偉夫氏(昭41)ならびに新役員が登壇して挨拶をし

ました。引き続き、新会長および役員より平成18年度事業計画案ならびに予算案が示され、こちらにも原案どおり承認されました。また、来年度の総会開催地についての提案と担当の近畿支部からの概要の説明がありました。その他の議案として、個人情報保護に関する基本方針(案)について本部役員から説明があり、活発な質問がなされました。

その後、同じ会場で開かれた懇親会は、「門司港名物バナナの叩き売り」や参加者全員で肩を組んでの校歌斉唱など大変にぎやかで盛大なものとなりました。

○支部長交代

山口支部長が河野信助氏(昭17)から若松輝明氏(昭45)へ交代(10/29)、大分支部長が藤井幹久氏(院昭44)から野尻敏博氏(昭48)へ交代(1/28)、長崎支部ぐびろ会会長が伊豫屋偉夫氏(昭41)から山中國暉氏(昭43)へ交代(5/27)の旨届出がありました。また、東海支部長椎名章夫氏(昭20)死去により空席、佐賀支部長江頭 昇氏(昭23)死去により空席となっています。

○長葉同窓会関連施設の維持・管理

平成18年8月6日(日)に、ぐびろが丘 原爆慰霊碑周辺の清掃を同窓会本部役員・事務局および現役学生・学生OBで行いました。また、12月3日(日)に小野島校舎跡地記念碑周辺の清掃を同窓会本部役員、小野島で学ばれた白川 學先生(昭23)および事務局で行いました。

○寄贈

今村 博氏(昭18)より写真歴50年記念のご自身の写真集「人その出会い」、倉田順子氏より倉田初五郎氏(明31)および倉田光博(昭9)氏の遺品の書籍「裁判化学」、「調剤術読本」、「衛生試験法」、「生薬学」上巻および下巻、「グビロ(学友会雑誌)」第9～第12号、ノート「生薬学(村山長之助先生口述)」全3冊、「衛生化学(森川初三郎先生口述)」および「裁判化学(村山長之助先生口述)」その他資料の寄贈がありました。倉田初五郎氏の遺品は明治時代のもので当時の学生の勉学への取り組みがうかがえます。同窓会室に保管しております。

物 故 者 氏 名

前会報(45号)に発表のあとなくなった方、及び死亡が判明した方(敬称略)

氏 名	卒年次	死亡年月日	氏 名	卒年次	死亡年月日	氏 名	卒年次	死亡年月日
栗 山 雅 行	特	不 明	堀(森下)泰 助	昭17	平18.10.8	小 川 純 久	昭28	平18.8.2
山像虎興(梶原虎一)	昭6	不 明	佐 藤 進 一	〃18	〃15.4.8	増 田 美 宏	〃29	〃18.1.1
吉 岡 正 夫	〃6	平18.3.12	乙 藤 隆	〃19	〃17.5.17	栗 林 友之助	〃30	〃18.6.10
吉 田 長太郎	〃7	〃16.2.12	古 谷 績 夫	〃19	〃18.3.25	青 木 義 人	〃31	〃16.9.13
児 島(高宮)豊	〃10	〃17.3.4	富 田 恒 夫	〃20	〃18.6.25	桑 原 英 之	〃31	〃18.3.12
松 浦 哲	〃11	〃11.一	石 井 繁 枝	〃22	〃18.6.23	恒 見 昭 男	〃34	〃18.1.20
松 尾 康 夫	〃12	〃18.5.21	福 井 義 雄	〃22	〃18.5.14	古 賀 利 枝	〃38	〃18.10.8
大 野 繁 勝	〃14	〃17.6.27	渡 辺 陽 一	〃22	〃18.6.18	北 崎 直	〃45	〃18.5.24
武 石 崑 雄	〃15	〃18.5.12	江 頭 昇	〃23	〃18.6.15	篠 田 郁 美	平1	〃18.5.1
井 上 喬 弘	〃16.12	〃18.11.8	成 末 正 博	〃24	〃18.5.一			
河 野 通 夫	〃16.12	〃18.7.一	松 島 豪三郎	〃24	〃18.11.3			
								計 31名

学 内 記 事

(海外渡航)

種別	官 職	氏 名	渡 航 先 国	期 間	渡 航 目 的
出張	助手	高橋 圭介	アメリカ合衆国	H17. 12. 15 H17. 12. 21	2005環太平洋国際化学会出席
出張	教授	畑山 範	カナダ アメリカ合衆国	H18. 4. 7 H18. 4. 14	第13回ビタミンDのワークショップ参加, 研究打ち合わせ
出張	助教授	田中 隆	中国	H18. 4. 23 H18. 5. 6	国際茶シンポジウム講演
出張	教授	松村 功啓	アメリカ合衆国	H18. 5. 7 H18. 5. 12	第209回米国電気化学会大会出席
出張	助教授	袁 徳其	ドイツ・イタリア	H18. 5. 10 H18. 5. 19	研究打ち合わせ, 第13回国際シクロデキストリンシンポジウム参加発表
出張	教授	畑山 範	韓国	H18. 5. 10 H18. 5. 13	第11回韓国－日本ジョイントシンポジウム出席参加
出張	助手	小野 正博	アメリカ合衆国	H18. 6. 2 H18. 6. 9	Society of Nuclear Medicine 53rd Annual Meeting に参加, 研究発表, 情報収集を行う
出張	教授	植田 弘師	アメリカ合衆国	H18. 7. 6 H18. 7. 16	研究打ち合わせ, 学会参加
出張	教授	中島憲一郎	イギリス・スペイン	H18. 7. 15 H18. 7. 23	研究打ち合わせ, シンポジウム出席
出張	教授	黒田 直敬	イギリス・スペイン	H18. 7. 15 H18. 7. 23	研究打ち合わせ, シンポジウム出席
出張	助教授	原武 衛	米国	H18. 7. 25 H18. 7. 31	Selenium2006に参加発表
出張	教授	河野 功	中国(香港)	H18. 8. 17 H18. 8. 19	International Conference & Exhibition of the Modernization of Chinese Medicine & Health Products Conference2006に参加と香港浸曾大学との交流
出張	教授	植田 弘師	カナダ	H18. 8. 20 H18. 8. 27	第1回 ICSMP への参加・情報収集
研修	助教授	北里 海雄	中国	H18. 8. 21 H18. 8. 25	研究交流, 情報収集, 抗ウイルス研究国際ネットワークについての話し合い
出張	助教授	田中 隆	カナダ	H18. 8. 21 H18. 8. 27	第23回国際ポリフェノール会議出席
出張	助手	松尾 洋介	カナダ	H18. 8. 21 H18. 8. 27	第23回国際ポリフェノール会議出席
出張	教授	松村 功啓	英国	H18. 8. 26 H18. 9. 3	第57回 ISE (57th annual Meeting of the International Society of Electrochemistry)
出張	教授	中山 守雄	イタリア	H18. 9. 4 H18. 9. 11	医療用PETのための(⁶⁸ Ge- ⁶⁸ Ga)ジェネレータシステムの開発
出張	助教授	田中 隆	アメリカ合衆国	H18. 9. 9 H18. 9. 16	第5回タンニン会議出席講演
出張	教授	中島憲一郎	中国	H18. 9. 10 H18. 9. 13	中国科学院上海薬物研究所での学術講演ならびに共同研究打ち合わせ

種別	官 職	氏 名	渡 航 先 国	期 間	渡 航 目 的
出張	教授	中山 守雄	大韓民国	H18. 10. 22 H18. 10. 26	サイクロトロンを必要としないPET系分子イメージング薬剤製造システムの構築
出張	教授	松村 功啓	メキシコ	H18. 10. 28 H18. 11. 3	210 th Meeting of The Electrochemical Society (2006 Joint International Meeting)
出張	教授	植田 弘師	アメリカ合衆国	H18. 11. 8 H18. 11. 12	フィリップモリスとの受託研究に関連する論文作成のための情報収集を目的とした研究打ち合わせ
出張	教授	芳本 忠	中国	H18. 11. 12 H18. 11. 17	復旦大学薬学院・中国薬科大学訪問
出張	助教授	西田 孝洋	中国	H18. 11. 12 H18. 11. 17	復旦大学薬学院・中国薬科大学訪問
出張	教授	河野 功	中国(香港)	H18. 11. 22 H18. 11. 25	2006世界中医薬大会に参加・講演と香港浸曾大学との交流

(異 動)

異動年月日	異 動 内 容	職	氏 名	所属研究室	備 考
18. 1. 1	採 用	助 手	出 水 庸 介	薬 用 植 物 園	徳島文理大学香川薬学部薬事科学研究室助手から
18. 3. 31	辞 職	助 手	太 田 和 子	機能性分子化学	
18. 3. 31	辞 職	助教授	大 庭 義 史	薬 品 分 析 化 学	長崎国際大学教授へ
18. 4. 1	昇 任	助 手	柳 原 克 紀	薬 物 治 療 学	医学部・歯学部附属病院検査部講師へ
18. 4. 1	昇 任	講 師	岸 川 直 哉	薬 品 分 析 化 学	薬品分析化学研究室助手から
18. 4. 1	採 用	助 手	松 尾 洋 介	天 然 物 化 学	
18. 5. 1	採 用	助 手	小 林 奨	薬 物 治 療 学	
18. 10. 1	採 用	助 手	柴 田 孝 之	機能性分子化学	

(学位授与)

学位記番号	学位の種類	氏 名	学位授与年月日	学位記番号	学位の種類	氏 名	学位授与年月日
甲第10号	博士(薬学)	まつなが はやと 松永 隼人	平成18年3月1日	甲第43号	博士(薬学)	ふくもと ひろり 福元 浩徳	平成18年3月20日
甲第17号	博士(医学)	サルダ レオノラ Salda Leonora トリニダ デモト Trinidad Demot	平成18年3月20日	甲第44号	博士(薬学)	たぐり としつぐ 田栗 利紹	平成18年3月20日
甲第32号	博士(学術)	すずき まさとし 鈴木 正敏	平成18年3月20日	甲第45号	博士(薬学)	いちばんが せともこ 一番ヶ瀬智子	平成18年3月20日
甲第33号	博士(医学)	やまうち もとひろ 山内 基弘	平成18年3月20日	甲第46号	博士(臨床薬学)	てしま わげん 手嶋 無限	平成18年3月20日
甲第41号	博士(医学)	さいとう まこと 齊藤 誠	平成18年3月20日	甲第61号	博士(医学)	ふ せ たかゆき 布施 隆行	平成18年3月20日
甲第42号	博士(薬学)	ふじわら ゆうすけ 藤原 雄介	平成18年3月20日				

長 薬 同 窓 会 役 員

(平成18年 6 月)

本部役員

会 長	伊豫屋 偉 夫	昭和41年	
副 会 長	富 永 義 則	昭和44年	環境科学部教授
〃	中 村 博	昭和45年	長崎県薬剤師会会長 大浦中央調剤薬局
〃	中 村 珠 江	昭和51年	なかむら薬局
〃	佐々木 均	昭和53年	医学部教授 附属病院薬剤部長
〃	中 嶋 幹 郎	昭和57年	薬学部教授
監 査	木 下 敏 夫	昭和35年	
庶務幹事	岸 川 直 哉	平成10年	薬学部講師
会計幹事	伊 藤 潔	昭和59年	薬学部助教授
編集幹事	高 良 真 也	昭和57年	環境科学部教授
幹 事	梶 島 力	平成 4 年	薬学部助教授
〃	和 田 光 弘	平成 4 年	薬学部助教授

学年理事

大正～昭和12年	谷 口 順 一	昭和38年	戸 川 和 夫	昭和60年	塩 田 英 雄
昭13～14年	徳 久 利 治	昭和39年	鈴 木 隆 治	昭和61年	田 口 智 子
昭15年	菊 谷 元 資	昭和40年	松 村 祐 文	昭和62年	森 川 朝 光
昭16年 3 月	小笠原 正 己	昭和41年	平 山 俊 郎	昭和63年	神 山 文 子
昭16年12月	本 多 三 代 彦	昭和42年	井 上 一 顕	平 1 年	松 下 稔
昭17～19年	牟 田 邦 彦	昭和43年	井 上 志 郎	平 2 年	山 本 隆 志
昭20年	池 田 保 彦	昭和44年	富 永 義 則	平 3 年	北 原 隆 力
昭22年	田 崎 和 之 輔	昭和45年	中 村 博 子	平 4 年	枇 島 仁 樹
昭23年	吉 海 公 介	昭和46年	大 西 裕 郎	平 5 年	森 本 浩
昭24年	麻 生 忠 彦	昭和47年	松 本 逸 夫	平 6 年	鷗 池 尾 有
昭25年	塚 崎 邦 夫	昭和48年	上 川 恒 輝	平 7 年	中 大 脇 裕
昭26年	篠 田 英 一 美	昭和49年	馬 場 満 江	平 8 年	平 福 留 朋
昭28年	吉 田 季 治	昭和50年	北 村 美 均	平 9 年	松 永 隼 人
昭29年	野見山 辰 雄	昭和51年	原 田 隆 司	平10年	福 今 村 朋
昭30年	帆 士 貴 世 志	昭和52年	池 崎 均	平11年	松 永 幸 梨
昭31年	今 泉 子 史	昭和53年	佐々木 哲 也	平12年	児 玉 浪 真
昭32年	長 田 博 幸 夫	昭和54年	濱 田 佳 史	平13年	河 坂 田 松
昭33年	三 浦 敏 子	昭和55年	大 田 正 広	平14年	富 永 規
昭34年	松 尾 敏 子	昭和56年	山 口 真 也	平15年	
昭35年	木 下 成 子	昭和57年	高 崎 幹 雄	平16年	
昭36年	武 田 研 次	昭和58年	宮 村 忠 博	平17年	
昭37年	吉 田 研 次	昭和59年	中 村 忠 博	平18年	

院 1～院 5 (昭和42年～昭和46年) 新垣 光雄 (昭和46年)
 院 6～院10 (昭和47年～昭和51年) 高橋 正克 (昭和49年)
 院11～院15 (昭和52年～昭和56年) 大木 豊 (昭和54年)
 院16～院20 (昭和57年～昭和61年) 中嶋 幹郎 (昭和59年)
 院21～院25 (昭和62年～平成 3 年) 本多 雅幸 (平成 1 年)
 院26～院30 (平成 4 年～平成 8 年) 富田 守 (平成 4 年)
 院31～院35 (平成 9 年～平成13年) 原田 祐樹 (平成 9 年)
 院36～院42 (平成14年～平成18年) 大山 要 (平成14年)

長 薬 同 窓 会 支 部 一 覧

(平成18年10月)

長崎支部ぐびろ会	会 長	山 中 國 暉	(昭 43)
長 崎 県 北 支 部	支部長	大 隈 直 之	(昭 23)
島 原 支 部	支部長	宮 崎 圭 介	(昭 31)
諫 早 支 部	支部長	赤 司 一 武	(昭 22)
佐 賀 支 部	支部長		
福岡支部浦陵会	会 長	青 木 郁	(昭 38)
北 九 州 支 部	支部長	末 宗 成 二	(昭 28)
大 分 支 部	支部長	野 尻 敏 博	(昭 48)
宮崎支部日向浦陵会	会 長	田 中 重 雄	(昭 45)
鹿 児 島 支 部	支部長	森 昭 雄	(昭 28)
熊 本 支 部	支部長	山 本 喜 一 郎	(院昭55)
山 口 支 部	支部長	若 松 輝 明	(昭 45)
広 島 支 部	支部長	品 川 龍 太 郎	(昭 44)
岡 山 支 部	支部長	歳 森 三 千 代	(昭 49)
山 陰 支 部	支部長	橋 本 覚	(昭 52)
四 国 支 部	支部長	井 上 智 喜	(昭 54)
近 畿 支 部	支部長	白 石 哲 也	(昭 32)
東 海 支 部	支部長		
関 東 支 部	支部長	富 安 一 夫	(昭 34)
沖 縄 支 部	支部長	藤 本 勝 喜	(昭 31)
北 海 道 支 部	支部長		

事務局よりお願い

名簿の住所記載について

従来〇丁目〇ー〇と記載しておりましたが，住所のお届け時に〇ー〇ー〇と記載の方もあり，統一するため以下の通りと致します。また，マンション名等はできるだけご記入くださるようお願いいたします。

(例)	一丁目 1-1	二丁目 1-1〇〇マンション201
	↓	↓
	1-1-1	2-1-1〇〇マンション201

住所，勤務先のお届けについて

最近，同窓会員を名乗り会員名簿を手に入れようとする電話があります。

個人情報保護法もあり本人かどうか確認するために，会員名簿にご住所等非掲載をご希望の方も事務局へはご連絡くださいますようお願いいたします。

また，来年は会員名簿の発行を予定しております。お手数ですが，変更等は早目にご連絡をお願いいたします。ご協力よろしくお願い申し上げます。

編集後記

長薬同窓会報第46号をお届け致します。

今回は例年以上に多方面の方からご寄稿頂きました。西脇前会長の3期に渡るご努力もあり，支部活動の活性化が進んでいることを感じさせる投稿内容が増えています。若い方々の支部会参加の報もあり喜ばしい限りです。少しずつですが浸透してきたこの流れが，伊豫屋新会長の下，より一層大きな流れとなっていけばと思います。

高良真也（昭57）記

平成18年12月19日印刷

平成18年12月22日発行

長薬同窓会報

編集 高良真也

発行 長薬同窓会

（郵便番号852-8131）

所在地 長崎市文教町1-14 長崎大学薬学部内

TEL095-844-6383（直通）

095-819-2471（ダイヤルイン）

FAX095-844-6383

メールアドレス choyaku@sings.jp

（郵便番号850-0875）

印刷所 長崎市栄町6-23昭和堂ビル

（株）昭和堂

TEL095-821-1234

